



# Room Navigator (スタンドアロン) の API リファレンスガイド

ソフトウェアバージョン: RoomOS 11.3

目次の項目はすべてハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する章に移動できます。メインセクション間を移動するには、上部のメニューバーのボタンを使用します。

## 目次

はじめに .....	3
シスコの利用規約 .....	3
設定 .....	4
ネットワークの設定 .....	5
NetworkServices の設定 .....	13
RoomScheduler の設定 .....	16
Security の設定 .....	17
SystemUnit の設定 .....	18
Time の設定 .....	19
UserInterface の設定 .....	21
UserManagement の設定 .....	23
Video の設定 .....	25
WebEngine の設定 .....	25
コマンド .....	27
Bookings コマンド .....	28
Diagnostics コマンド .....	31
Logging コマンド .....	31
Provisioning コマンド .....	32
Security コマンド .....	32
SystemUnit コマンド .....	37
Time コマンド .....	39
UserInterface コマンド .....	39
UserManagement コマンド .....	40
WebEngine コマンド .....	43
Webex コマンド .....	44
ステータス .....	45
Bookings ステータス .....	46
Diagnostics ステータス .....	47
Network ステータス .....	48
NetworkServices ステータス .....	52
Provisioning ステータス .....	52
Standby ステータス .....	55
SystemUnit ステータス .....	55
Time ステータス .....	58
UserInterface ステータス .....	59
WebEngine ステータス .....	60
Webex ステータス .....	61
その他の設定 (プログラミング用ではない) .....	62

## はじめに

Room Navigator は、ビデオ会議デバイスとペアリングすることも、ビデオ会議デバイスが設置されていない会議室でスタンドアロンデバイスとして使用することもできます。

スタンドアロン Room Navigator には、RoomOS ソフトウェアを実行している他のデバイスと同様に、強力なパブリック API があります。ペアリングされた Room Navigator には、独自のパブリック API はありません。Room Navigator がペアリングされているデバイスの API が適用されます。

この API リファレンスガイドは、スタンドアロン Room Navigator にも適用されます。Room Navigator がビデオ会議デバイスとペアリングされている場合は、ビデオ会議デバイスの通常の API リファレンスガイドが適用されます。

### その他の参考資料

ヘルプセンターのスタンドアロン Room Navigator に関する記事

▶ [スタンドアロンとしての Room Navigator](#)

cisco.com のビデオ会議デバイス用の通常の API リファレンスガイド (pdf)

▶ [シスコ コラボレーション デバイス用 API リファレンス ガイド](#)

開発者およびインテグレータ向けの RoomOS Web サイト

▶ <https://roomos.cisco.com/doc/TechDocs/xAPI>

## シスコの利用規約

シスコのソフトウェアおよびクラウド サービスの利用には、以下の利用規約が適用されます。Cisco API の利用には、[Cisco Webex デベロッパーサービスの利用条件](#)が適用されます。

### スケジュールされたミーティングへの参加機能に関して許可される商用利用

シスコ利用規約に加えて、次のユースケースでは、商用利用に、ワンボタン機能と同様のスケジュールされた会議参加体験の許可が別途必要です。これには、この機能の提供を目的とした外部ソースからのカレンダーデータでデバイスを更新する API の仕様が含まれます。たとえば、「xCommand Bookings Put」や「bookingsputxml」などの以前のプライベート API などが該当します。また、同じ機能を実現するためにそれ以外の API を使用する場合も、商用利用の許可が必要になります。

スケジュールされたミーティングへの参加機能を提供する場合は、許可されている商用利用の条件に従うか、非営利の利用とする必要があります。非営利の利用とは、直接か間接かを問わず、収入を生むサービスまたは製品の一部としての API の使用、またはそれを促進するための API の使用を伴うアクティビティとしてではなく、社内の事業運営としてのみ利用するものと定義されます。

非営利での利用に該当しない、スケジュールされたミーティングへの参加機能を提供するための利用には、シスコによる個別の許可が必要です。

シスコは、API を利用するためのライセンスを失効させる権利を有します。シスコは、許可されていない商用目的での利用であるか、または Webex デベロッパー サービス利用条件に違反しているかについて、独自の裁量により判断するものとします。自社の API 利用目的が許可の範囲内であるかどうかご質問がある場合、または許可の取得について問い合わせる場合は、[devsupport@webex.com](mailto:devsupport@webex.com)まで連絡してください。

## 設定

<b>ネットワークの設定</b> .....	<b>5</b>	xConfiguration NetworkServices SSH Mode .....	15
xConfiguration Network [n] DNS Domain Name .....	5	xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm .....	16
xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address .....	5	<b>RoomScheduler の設定</b> .....	<b>16</b>
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Mode .....	6	xConfiguration RoomScheduler Enabled .....	16
xConfiguration Network [n] IEEE8021X TlsVerify .....	6	<b>Security の設定</b> .....	<b>17</b>
xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate .....	6	xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime .....	17
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Identity .....	6	xConfiguration Security Session InactivityTimeout .....	17
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Password .....	6	xConfiguration Security Session MaxFailedLogins .....	17
xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity .....	7	xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser .....	17
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5 .....	7	xConfiguration Security Session MaxTotalSessions .....	17
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Ttls .....	7	xConfiguration Security Session ShowLastLogon .....	18
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls .....	7	xConfiguration Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed .....	18
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap .....	8	<b>SystemUnit の設定</b> .....	<b>18</b>
xConfiguration Network [n] IPStack .....	8	xConfiguration SystemUnit Name .....	18
xConfiguration Network [n] IPv4 Assignment .....	8	xConfiguration SystemUnit BroadcastName .....	18
xConfiguration Network [n] IPv4 Address .....	8	xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode .....	18
xConfiguration Network [n] IPv4 Gateway .....	8	xConfiguration SystemUnit CrashReporting URL .....	19
xConfiguration Network [n] IPv4 InterfaceIdentifier .....	9	xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId .....	19
xConfiguration Network [n] IPv4 SubnetMask .....	9	xConfiguration SystemUnit TouchPanel Location .....	19
xConfiguration Network [n] IPv6 Assignment .....	9	<b>Time の設定</b> .....	<b>19</b>
xConfiguration Network [n] IPv6 Address .....	9	xConfiguration Time DateFormat .....	19
xConfiguration Network [n] IPv6 Gateway .....	10	xConfiguration Time TimeFormat .....	19
xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions .....	10	xConfiguration Time Zone .....	20
xConfiguration Network [n] IPv6 InterfaceIdentifier .....	10	<b>UserInterface の設定</b> .....	<b>21</b>
xConfiguration Network [n] MTU .....	10	xConfiguration UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL .....	21
xConfiguration Network [n] QoS Mode .....	11	xConfiguration UserInterface KeyTones Mode .....	21
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Video .....	11	xConfiguration UserInterface Language .....	22
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Data .....	11	xConfiguration UserInterface LedControl Mode .....	22
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Signalling .....	11	xConfiguration UserInterface Security Mode .....	22
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6 .....	12	xConfiguration UserInterface SettingsMenu Mode .....	22
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv NTP .....	12	xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility .....	22
xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow .....	12	<b>UserManagement の設定</b> .....	<b>23</b>
xConfiguration Network [n] VLAN Voice Mode .....	12	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits .....	23
xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId .....	13	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength .....	23
<b>NetworkServices の設定</b> .....	<b>13</b>	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase .....	23
xConfiguration NetworkServices CDP Mode .....	13	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial .....	23
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode .....	13	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase .....	24
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy LoginName .....	14	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime .....	24
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode .....	14	xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit .....	24
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy PACUrl .....	14	<b>Video の設定</b> .....	<b>25</b>
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Password .....	14	xConfiguration Video Output Connector BrightnessMode .....	25
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Url .....	14	xConfiguration Video Output Connector BrightnessValue .....	25
xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion .....	15		
xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity .....	15		
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate .....	15		

<b>WebEngine の設定</b> .....	25
xConfiguration WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts .....	25
xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion .....	25
xConfiguration WebEngine Mode .....	26
xConfiguration WebEngine RemoteDebugging .....	26
xConfiguration WebEngine UseHttpProxy .....	26

ソフトウェアバージョン: RoomOS 11.3.1

## ネットワークの設定

### xConfiguration Network [n] DNS Domain Name

必要なユーザー ロール: ADMIN

DNS ドメイン名は非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「mydevice」の場合、DNS ルックアップ「mydevice.company.com」になります。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] DNS Domain Name: "Name"
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Name: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

DNS ドメイン名。

### xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address

必要なユーザー ロール: ADMIN

DNS サーバーのネットワーク アドレスを定義します。最大 3 つまでのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーにお問い合わせます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address: "Address"
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

m: DNS サーバーを識別するインデックス。最大 3 台の DNS サーバーが許可されます。  
範囲: 1 ~ 3

Address: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Mode: Off/On - デフォルト値: **Off**

**Off**: 802.1X 認証が無効になります。

**On**: 802.1X 認証が有効になります。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X TlsVerify

必要なユーザー ロール: ADMIN

TLS を使用する場合は、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバー側証明書の検証です。CA リストをデバイスにアップロードする必要があります。これは、デバイスの Web インターフェイスからできます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にのみ有効です。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X TlsVerify: TlsVerify

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

TlsVerify: Off/On - デフォルト値: **Off**

**Off**: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバー側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、デバイスに CA リストがアップロードされていない場合を選択する必要があります。

**On**: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバー側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバーだけが許可されます。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate

必要なユーザー ロール: ADMIN

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書がデバイスにアップロードされている必要があります。これは、デバイスの Web インターフェイスからできます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate:  
UseClientCertificate

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

UseClientCertificate: Off/On - デフォルト値: **Off**

**Off**: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバー側のみ)。

**On**: On に設定した場合、クライアント (デバイス) はサーバーと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Identity

必要なユーザーロール: ADMIN

802.1X 認証用のユーザー名を定義します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Identity: "Identity"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Identity: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

802.1X 認証用のユーザー名。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Password

必要なユーザー ロール: ADMIN

802.1X 認証用のパスワードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Password: "Password"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Password: 文字列 (0, 50) - デフォルト値: ""

802.1X 認証用のパスワード。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity

必要なユーザー ロール: ADMIN

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity:  
  "AnonymousIdentity"
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1  
AnonymousIdentity: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""  
802.1X 匿名 ID 文字列。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5

必要なユーザー ロール: ADMIN

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5: Md5
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1  
Md5: Off/On - デフォルト値: **On**  
**Off**: EAP-MD5 プロトコルは無効になります。  
**On**: EAP-MD5 プロトコルが有効になります。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Ttls

必要なユーザーロール: ADMIN

TTLS (トンネル方式トランスポート層セキュリティ) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Ttls: Ttls
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1  
Ttls: Off/On - デフォルト値: **On**  
**Off**: EAP-TTLS プロトコルは無効になります。  
**On**: EAP-TTLS プロトコルが有効になります。

### xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls

必要なユーザー ロール: ADMIN

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブまたはディセーブにします。RFC5216 で定義された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls: Tls
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1  
Tls: Off/On - デフォルト値: **On**  
**Off**: EAP-TLS プロトコルは無効になります。  
**On**: EAP-TLS プロトコルが有効になります。

## xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap

必要なユーザー ロール: ADMIN

PEAP (Protected Extensible Authentication Protocol) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、Cisco と RSA Security により開発されました。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap: Peap

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Peap: Off/On - デフォルト値: **On**

**Off**: EAP-PEAP プロトコルは無効になります。

**On**: EAP-PEAP プロトコルが有効になります。

## xConfiguration Network [n] IPStack

必要なユーザーロール: ADMIN

デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。この設定が有効になるまで最大 30 秒かかる可能性があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPStack: IPStack

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

IPStack: Dual/IPv4/IPv6 - デフォルト値: **Dual**

**Dual**: Dual に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

**IPv4**: IPv4 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

**IPv6**: IPv6 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

## xConfiguration Network [n] IPv4 Assignment

必要なユーザーロール: ADMIN

デバイスが IPv4 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを取得する方法を定義します。

DHCP リクエストで使用されるクライアント識別子は、RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子 (DUID) です。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 Assignment: Assignment

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Assignment: Static/DHCP - デフォルト値: DHCP

**Static**: アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

**DHCP**: デバイス アドレスは DHCP サーバーによって自動的に割り当てられます。

## xConfiguration Network [n] IPv4 Address

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 Address: "Address"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Address: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

有効な IPv4 アドレス。

## xConfiguration Network [n] IPv4 Gateway

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 Gateway: "Gateway"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Gateway: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

有効な IPv4 アドレス。



## xConfiguration Network [n] IPv4 InterfaceIdentifier

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv4 DHCP に使用する識別子を選択します。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IPv4 InterfaceIdentifier:  
InterfaceIdentifier
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

InterfaceIdentifier: Auto/MAC/Opaque: デフォルト値: **Auto**

**MAC**: デバイスは「01」の後にデバイスの MAC アドレスを識別子として送信します。

**Opaque**: デバイスは RFC4361 ベースの DHCP Unique Identifier (DUID) を使用します。DUID-LL (タイムスタンプなしのリンク層アドレスに基づく)。

**Auto**: デバイスは Opaque、つまり RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子 (DUID) を使用します。

## xConfiguration Network [n] IPv4 SubnetMask

必要なユーザーロール: ADMIN

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IPv4 SubnetMask: "SubnetMask"
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

SubnetMask: 文字列 (0, 64) : デフォルト値: ""

有効な IPv4 アドレス。

## xConfiguration Network [n] IPv6 Assignment

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが IPv6 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを取得する方法を定義します。

DHCP リクエストで使用されるクライアント識別子は、RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子 (DUID) です。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IPv6 Assignment: Assignment
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Assignment: Static/DHCPv6/Autoconf - デフォルト値: **Autoconf**

**Static**: デバイスおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバー アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバーから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOptions 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

**DHCPv6**: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバーから取得されます。詳細については RFC3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPOptions 設定は無視されます。

**Autoconf**: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステートレス自動設定を有効にします。詳細については RFC4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバー アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバーから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOptions 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

## xConfiguration Network [n] IPv6 Address

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] IPv6 Address: "Address"
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Address: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

ネットワーク マスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

## xConfiguration Network [n] IPv6 Gateway

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 Gateway: "Gateway"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Gateway: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""

有効な IPv6 アドレス。

## xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions

必要なユーザー ロール: ADMIN

DHCPv6 サーバーから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバー アドレスなど) を取得します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions: DHCPOptions

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

DHCPOptions: Off/On - デフォルト値: **On**

**Off**: DHCPv6 サーバーからの DHCP オプションの取得を無効にします。

**On**: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバーからの取得を有効にします。

## xConfiguration Network [n] IPv6 InterfaceIdentifier

必要なユーザーロール: ADMIN

デバイスの IPv6 インターフェイス ID を定義します。選択したインターフェイス ID (MAC または Opaque) によって、IPv6 アドレスの一部を生成するために使用されるメソッドが決定します。これは、リンクローカル IPv6 アドレスとステートレスアドレス自動構成 (SLAAC) アドレスの両方に該当します。

アドレスには、デバイスによって生成された 64 ビットのプレフィックスと 64 ビットインターフェイス ID が含まれます。MAC では、RFC-2373 で説明するように、EUI-64 ベースのインターフェイス ID が生成されます。

Opaque では、デバイスの最初のブート時に RFC-7217 で説明するようにランダムな 64 ビットのインターフェイス ID が生成され、永遠に、または工場出荷時の状態にリセットされるまで使用されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 InterfaceIdentifier:  
InterfaceIdentifier

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

InterfaceIdentifier: MAC/Opaque - デフォルト値: **MAC**

**MAC**: インターフェイス識別方法として MAC を選択します。

**Opaque**: インターフェイス識別方法として Opaque を選択します。

## xConfiguration Network [n] MTU

必要なユーザー ロール: ADMIN

イーサネット MTU (最大伝送ユニット) サイズを定義します。MTU サイズは、ネットワーク インフラストラクチャでサポートする必要があります。IPv4 の場合、最小サイズは 576 で、IPv6 の場合、最小サイズは 1280 です。

使用方法:

xConfiguration Network [n] MTU: MTU

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

MTU: 整数 (576 ~ 1500) - デフォルト値: **1500**

MTU の値を設定します (バイト単位)。

## xConfiguration Network [n] QoS Mode

必要なユーザーロール: ADMIN

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオ、その他のデータの優先順位を処理する手法です。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (差別化サービス) は、ネットワークトラフィックを分類して管理するための、シンプルかつスケーラブルで粗いメカニズムを指定するネットワークアーキテクチャです。これにより、IP ネットワークに QoS 優先順位が割り当てられます。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Mode: Off/Diffserv - デフォルト値: **Diffserv**

**Off**: QoS メソッドは使用されません。

**Diffserv**: [ネットワーク QoS Diffserv ビデオ (Network QoS Diffserv Video) ], [ネットワーク QoS Diffserv データ (Network QoS Diffserv Data) ], [ネットワーク QoS Diffserv シグナリング (Network QoS Diffserv Signalling) ], [ネットワーク QoS Diffserv ICMPv6 (Network QoS Diffserv ICMPv6) ], および [ネットワーク QoS Diffserv NTP (Network QoS Diffserv NTP) ] の各設定を使用して、パケットに優先順位が付けられます。

## xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Video

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーションチャネル (共有コンテンツ) のパケットも、ビデオパケットのカテゴリに属します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ビデオには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Video: Video

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Video: 整数 (0 ~ 63) - デフォルト値: **34**

IP ネットワーク内でのビデオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

## xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Data

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。データには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Data: Data

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Data: 整数 (0 ~ 63) - デフォルト値: **34**

IP ネットワーク内でのデータパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

## xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Signalling

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode) ] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。シグナリングには CS3 を使用することをお勧めします。CS3 は 10 進数値の 24 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Signalling: Signalling

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Signalling: 整数 (0 ~ 63) - デフォルト値: **24**

IP ネットワーク内でのシグナリングパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

## xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ICMPv6 には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6: ICMPv6

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

ICMPv6: 整数 (0 ~ 63) - デフォルト値: 0

IP ネットワーク内での ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

## xConfiguration Network [n] QoS Diffserv NTP

必要なユーザーロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。NTP には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv NTP: NTP

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

NTP: 整数 (0 ~ 63) - デフォルト値: 0

IP ネットワーク内での NTP パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

## xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow

必要なユーザーロール: ADMIN

リモートアクセスで SSH/HTTP/HTTPS からデバイスに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワークマスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ~ 32 の範囲および IPv6 では 1 ~ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワークマスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow: "Allow"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Allow: 文字列 (0、255) - デフォルト値: ""

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

## xConfiguration Network [n] VLAN Voice Mode

必要なユーザーロール: ADMIN

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、VLAN 音声モードが Auto に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

### 使用方法:

xConfiguration Network [n] VLAN Voice Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

Mode: Auto/Manual/Off - デフォルト値: **Auto**

**Auto**: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN は有効になりません。

**Manual**: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって却下されます。

**Off**: VLAN は有効になりません。

## xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId

必要なユーザーロール: ADMIN

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、Network VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

使用方法:

```
xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId: VlanId
```

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1 ~ 1

VlanId: 整数 (1 ~ 4094) - デフォルト値: 1

VLAN 音声 ID を設定します。

## NetworkServices の設定

### xConfiguration NetworkServices CDP Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、デバイスは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP を無効にすると、[ネットワーク音声 VLAN モード (Network VLAN Voice Mode)]:[自動 (Auto)] 設定は機能しません。

使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices CDP Mode: Mode
```

説明:

Mode: Off/On - デフォルト値: On

**Off**: CDP デーモンは無効です。

**On**: CDP デーモンは有効です。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP または HTTPS (セキュア HTTP) プロトコルによるデバイスへのアクセスを許可するかどうかを指定します。デバイスの Web インターフェイスは HTTP または HTTPS を使用することに注意してください。この設定を Off にすると、Web インターフェイスを使用できなくなります。

セキュリティの強化 (Web サーバーから返されるページと要求の暗号化/暗号化解除) が必要な場合、HTTPS のみを許可します。

使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode: Mode
```

説明:

Mode: Off/HTTP+HTTPS/HTTPS - デフォルト値: HTTPS

**Off**: HTTP や HTTPS によるデバイスへのアクセスを禁止します。

**HTTP+HTTPS**: HTTP と HTTPS の両方によるデバイスへのアクセスを許可します。

**HTTPS**: HTTPS によるデバイスへのアクセスを許可し、HTTP によるアクセスを禁止します。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy LoginName

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、HTTP プロキシに対する認証に使用されるクレデンシャルのユーザー名部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証方式の HTTP 認証方式がサポートされています。

#### 使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy LoginName: "LoginName"
```

説明:

LoginName: 文字列 (0, 80) : デフォルト値: ""  
認証ログイン名。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィックに対してプロキシ サーバーを設定できます。HTTP プロキシは手動でセットアップするか、自動設定 (PACUrl) または完全な自動化 (WPAD) を使用するか、オフにすることができます。

NetworkServices HTTP Proxy Mode) が [オフ (Off)] でない場合は、Web エンジンが WebEngine UseHttpProxy 設定でプロキシを使用するかをさらに指定できます。

Webex クラウドとの通信は、NetworkServices HTTP Proxy Mode が [オフ (Off)] でない限り、常にプロキシ経由で行われます。

#### 使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode: Mode
```

説明:

Mode: Manual/Off/PACUrl/WPAD - デフォルト値: Off

**Manual**: NetworkServices HTTP Proxy URL 設定にプロキシ サーバーのアドレスを入力します。必要に応じて、NetworkServices HTTP Proxy LoginName/Password 設定に HTTP プロキシのログイン名とパスワードを追加します。

**Off**: HTTP プロキシ モードがオフになっています。

**PACUrl**: HTTP プロキシは自動構成です。NetworkServices HTTP Proxy PACUrl 設定で PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を入力する必要があります。

**WPAD**: WPAD (Web プロキシ自動検出) を使用して、HTTP のプロキシは完全に自動化されかつ自動構成されます。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy PACUrl

必要なユーザー ロール: ADMIN

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が PACUrl に設定されている必要があります。

#### 使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy PACUrl: "PACUrl"
```

説明:

PACUrl: 文字列 (0, 255) - デフォルト値: ""  
PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Password

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、HTTP プロキシへの認証に使われるクレデンシャルのパスワード部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証方式の HTTP 認証方式がサポートされています。

#### 使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Password: "Password"
```

説明:

Password: 文字列 (0, 64) - デフォルト値: ""  
認証パスワード。

### xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Url

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP プロキシ サーバーの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。

#### 使用方法:

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Url: "Url"
```

説明:

Url: 文字列 (0, 255) - デフォルト値: ""  
HTTP プロキシ サーバーの URL。

### xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTPS で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

#### 使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion:

MinimumTLSVersion

説明:

MinimumTLSVersion: TLSv1.1/TLSv1.2 - デフォルト値: TLSv1.1

**TLSv1.1**: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

**TLSv1.2**: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

### xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP Strict Transport Security ヘッダーにより、Web サイトからブラウザに対して、サイトを HTTP を使用してロードすることを避け、サイトへの HTTP を使用したアクセスはすべて HTTPS リクエストに自動変換する必要があることを通知します。

#### 使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity:

StrictTransportSecurity

説明:

StrictTransportSecurity: Off/On - デフォルト値: Off

**Off**: HTTP Strict Transport Security 機能が無効になります。

**On**: HTTP Strict Transport Security 機能が有効になります。

### xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが HTTPS クライアント (Web ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにデバイスに証明書を提示するように要求されることがあります。

#### 使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate:

VerifyClientCertificate

説明:

VerifyClientCertificate: Off/On - デフォルト値: Off

**Off**: クライアント証明書を確認しません。

**On**: 信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがデバイスに事前にアップロードされている必要があります。

### xConfiguration NetworkServices SSH Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH (セキュアシェル) プロトコルは、デバイスとローカルコンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

#### 使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On - デフォルト値: On

**Off**: SSH プロトコルは無効になります。

**On**: SSH プロトコルは有効になります (デフォルト)。

## xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH ホストキーに使用される暗号化アルゴリズムを選択します。2048 ビットのキーサイズを用いる RSA (リベスト・シャミル・エイドルマンアルゴリズム)、NIST 曲線の P-384 を用いる ECDSA (楕円曲線デジタル署名アルゴリズム)、ed25519 署名方式を用いる EdDSA (エドワード曲線デジタル署名アルゴリズム) から選択します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm: HostKeyAlgorithm  
値は次のとおりです。

HostKeyAlgorithm: ECDSA/RSA/ed25519: デフォルト値: RSA

**ECDSA**: ECDSA アルゴリズムを使用します (nist-384p)。

**RSA**: RSA アルゴリズムを使用します (2048 bits)。

**ed25519**: ed25519 アルゴリズムを使用します。

## RoomScheduler の設定

### xConfiguration RoomScheduler Enabled

必要なユーザー ロール: ADMIN

ルームスケジューリング機能を使用すると、会議室にあるタッチコントローラから部屋を直接予約できます。部屋が使用可能な場合は、進行中の会議を延長することもできます。Webex Assistant (音声駆動型の仮想アシスタント) を使用して会議を予約または延長することもできます。

会議室のスケジュール機能を使用するには、予約を許可するカレンダーサービスを使用して会議室を設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration RoomScheduler Enabled: Enabled

説明:

Enabled: False/True - デフォルト値: **False**

**False**: ルームスケジューリング機能は使用できません。

**True**: 上記の前提条件を満たす場合、ルームスケジューリング機能を使用できます。



## Security の設定

### xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが Web または SSH セッションのログインに失敗したあと、デバイスがユーザーをロックアウトする時間を定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

#### 使用方法:

xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime:  
FailedLoginsLockoutTime

説明:

FailedLoginsLockoutTime: 整数 (0 ~ 10000) - デフォルト値: 60  
ロックアウト時間 (分) を設定します。

### xConfiguration Security Session InactivityTimeout

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが Web または SSH セッションから自動的にログアウトされるまでに、デバイスがユーザーの非アクティブ状態をどれくらいの時間受け入れるかを定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

#### 使用方法:

xConfiguration Security Session InactivityTimeout: InactivityTimeout  
説明:

InactivityTimeout: 整数 (0 ~ 10000) - デフォルト値: 0  
非アクティブタイムアウト (分) を設定します。0 を指定すると、1 時間のタイムアウトになります。最大タイムアウト長は 12 時間です。

### xConfiguration Security Session MaxFailedLogins

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web または SSH セッションにログイン試行を失敗できるユーザー 1 人あたりの最大数を定義します。ユーザーが試行の最大数を超えた場合、ユーザーはロックアウトされます。0 は、失敗できるログインの回数に制限がないことを意味します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

#### 使用方法:

xConfiguration Security Session Maxfailed Logins: MaxfailedLogins

説明:

MaxFailedLogins: 整数 (0 ~ 10) - デフォルト値: 0  
ユーザー 1 人あたりの失敗できるログイン試行の最高回数を設定します。

### xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザー 1 人あたりの最大同時セッション数は 20 セッションです。

#### 使用方法:

xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser: MaxSessionsPerUser

説明:

MaxSessionsPerUser: 整数 (1 ~ 20) - デフォルト値: 20  
ユーザー 1 人あたりの最大同時セッション数を設定します。

### xConfiguration Security Session MaxTotalSessions

必要なユーザー ロール: ADMIN

同時セッションの合計最大数は 20 セッションです。

#### 使用方法:

xConfiguration Security Session MaxTotalSessions: MaxTotalSessions

説明:

MaxTotalSessions: 整数 (1 ~ 20) - デフォルト値: 20  
同時セッションの合計最大数を設定します。

## xConfiguration Security Session ShowLastLogon

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH を使用してデバイスにログインすると、前回ログインに成功したセッションのユーザー ID、時刻および日付が表示されます。

使用方法:

xConfiguration Security Session ShowLastLogon: ShowLastLogon

説明:

ShowLastLogon: Off/On - デフォルト値: **Off**

**On**: 最後のセッションに関する情報を表示します。

**Off**: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

## xConfiguration Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web ソケットを介したデバイスの API へのアクセスを有効または無効にします。API アクセスを必要とする一般的なユースケースは、Room Navigator の LED の色を制御する永続的な Web アプリ (カスタム予約アプリなど) です。API アクセスが無効化されている場合でも、デバイスの API との通信を必要としないアプリは、引き続き Room Navigator で実行されます。

使用方法:

xConfiguration Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed: Allowed

説明:

Allowed: False/True - デフォルト値: **False**

**True**: Web アプリをホストしているサーバーのドメインが WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts 設定にリストされている場合、Web アプリは Web ソケットを介してデバイスの API と対話できます。

**False**: Web アプリ は、Web ソケットを介してデバイスの API と対話することを許可されていません。

## SystemUnit の設定

### xConfiguration SystemUnit Name

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイス名を定義します。デバイスが SNMP エージェントとして機能している場合に、デバイス名は DHCP リクエストでホスト名として送信されます。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit Name: "Name"

説明:

Name: 文字列 (0, 50) - デフォルト値: ""

デバイス名を定義します。

### xConfiguration SystemUnit BroadcastName

必要なユーザーロール: ADMIN

スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit BroadcastName: "BroadcastName"

説明:

### xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode

必要なユーザーロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。ACR ツールは、シスコ社内のみで使用し、お客様は利用できません。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On - デフォルト値: **On**

**Off**: ACR ツールにログは送信されません。

**On**: ACR ツールにログは自動的に送信されます。

### xConfiguration SystemUnit CrashReporting URL

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。ACR ツールは、シスコ社内のみで使用し、お客様は利用できません。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CrashReporting URL: "URL"

説明:

URL: 文字列 (0、255) - デフォルト値: "acr.cisco.com"

[Cisco Automatic Crash Report ツール (Cisco Automatic Crash Report tool) ] の URL。

### xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SystemUnit CustomDeviceId は、ユニットに関するカスタム情報を保存する場所になります。これは、たとえば、プロビジョニング設定でデバイスを追跡する上で役立ちます。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId: "CustomDeviceId"

説明:

CustomDeviceId: 文字列 (0、255) - デフォルト値: ""

### xConfiguration SystemUnit TouchPanel Location

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの場所を指定します。デバイスは室内に配置することもできますが、部屋の予約を容易にするために、部屋の外に配置することもできます。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit TouchPanel Location: Location

説明:

Location: InsideRoom/NotSet/OutsideRoom - デフォルト値: **NotSet**

**InsideRoom**: デバイスは室内にあります。

**NotSet**: デバイスの場所に関する情報がありません。

**OutsideRoom**: デバイスは室外にあります。

## Time の設定

### xConfiguration Time DateFormat

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

日付の形式を定義します。

使用方法:

xConfiguration Time DateFormat: DateFormat

説明:

DateFormat: DD\_MM\_YY/MM\_DD\_YY/YY\_MM\_DD - デフォルト値: DD\_MM\_YY

**DD\_MM\_YY**: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

**MM\_DD\_YY**: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

**YY\_MM\_DD**: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

### xConfiguration Time TimeFormat

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

時刻の形式を定義します。

使用方法:

xConfiguration Time TimeFormat: TimeFormat

説明:

TimeFormat: 24H/12H - デフォルト値: **24H**

**24H**: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

**12H**: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

## xConfiguration Time Zone

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

デバイスが物理的に存在する地域のタイムゾーンを設定します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

## 使用方法:

xConfiguration Time Zone: [Zone](#)

## 説明:

**Zone:** アフリカ/アビジャン、アフリカ/アクラ、アフリカ/アディスアベバ、アフリカ/アルジェ、アフリカ/アスマラ、アフリカ/アスマラ、アフリカ/バマコ、アフリカ/バンギ、アフリカ/バンジュール、アフリカ/ピサウ、アフリカ/ブランタイヤ、アフリカ/ブラザヴィル、アフリカ/ブジュンバラ、アフリカ/カイロ、アフリカ/カサブランカ、アフリカ/セウタ、アフリカ/コナクリ、アフリカ/ダカール、アフリカ/ダルエスサラーム、アフリカ/ジブチ、アフリカ/ドゥアラ、アフリカ/アイウン、アフリカ/フリータウン、アフリカ/ハボローネ、アフリカ/ハラレ、アフリカ/ヨハネスブルグ、アフリカ/ジュバ、アフリカ/カンバラ、アフリカ/ハルツーム、アフリカ/キガリ、アフリカ/キンシャサ、アフリカ/ラゴス、アフリカ/リーブルヴィル、アフリカ/ロメ、アフリカ/ルアンダ、アフリカ/ルブンバシ、アフリカ/ルサカ、アフリカ/マラボ、アフリカ/マプト、アフリカ/マセル、アフリカ/ムババネ、アフリカ/モガディシュ、アフリカ/モンロビア、アフリカ/ナイロビ、アフリカ/カンジャメナ、アフリカ/ニアメ、アフリカ/ヌアクショット、アフリカ/ワガドゥグー、アフリカ/ポルトノボ、アフリカ/サントメ、アフリカ/トンブクトゥ、アフリカ/トリポリ、アフリカ/チュニス、アフリカ/ウィントエック、アフリカ/アダック、アフリカ/アンカレッジ、アフリカ/アンギラ、アフリカ/アンティグア、アフリカ/アラグアイナ、アフリカ/アルゼンチン/ブエノスアイレス、アフリカ/アルゼンチン/カタマルカ、アフリカ/アルゼンチン/コモドリバディア、アフリカ/アルゼンチン/コルドバ、アフリカ/アルゼンチン/フワイ、アフリカ/アルゼンチン/リオオハ、アフリカ/アルゼンチン/メンドーサ、アフリカ/アルゼンチン/リオガジェゴス、アフリカ/アルゼンチン/サルタ、アフリカ/アルゼンチン/サンフアン、アフリカ/アルゼンチン/サンルイス、アフリカ/アルゼンチン/トゥクマン、アフリカ/アルゼンチン/ウシュアイア、アフリカ/アルバ、アフリカ/アスンシオン、アフリカ/アティコカン、アフリカ/アトカ、アフリカ/バイア、アフリカ/バイアバンデラス、アフリカ/バルパドス、アフリカ/ベレン、アフリカ/ベリーズ、アフリカ/ブランサブロン、アフリカ/ボアビスタ、アフリカ/ボゴタ、アフリカ/ボイシ、アフリカ/ブエノスアイレス、アフリカ/ケンブリッジベイ、アフリカ/カンボグランデ、アフリカ/カンクン、アフリカ/カラカス、アフリカ/カタマルカ、アフリカ/カイエック、アフリカ/ケイマン、アフリカ/シカゴ、アフリカ/チワワ、アフリカ/シウダーフアレス、アフリカ/コーラルハーバー、アフリカ/コルドバ、アフリカ/コスタリカ、アフリカ/クレストン、アフリカ/クイアバ、アフリカ/キュラソー、アフリカ/デンマークハウム、アフリカ/ドーソン、アフリカ/ドーソククリーク、アフリカ/デンバー、アフリカ/デトロイト、アフリカ/ドミニカ、アフリカ/エドモントン、アフリカ/エルネベ、アフリカ/エルサルバドル、アフリカ/エンセナダ、アフリカ/インディアナ/ピーターズバーグ、アフリカ/インディアナ/テルシシティ、アフリカ/インディアナ/ヴェヴァイ、アフリカ/インディアナ/ピンセンズ、アフリカ/インディアナ/ウィナマック、アフリカ/インディアナ/ボリス、アフリカ/インディアナ/ノックス、アフリカ/インディアナ/マレンゴ、アフリカ/インディアナ/ピーターズバーグ、アフリカ/インディアナ/テルシシティ、アフリカ/インディアナ/ヴェヴァイ、アフリカ/インディアナ/ピンセンズ、アフリカ/インディアナ/ウィナマック、アフリカ/インディアナ/ボリス、アフリカ/イヌビック、アフリカ/イカイト、アフリカ/ジャマイカ、アフリカ/フワイ、アフリカ/ジュノー、アフリカ/ケンタッキー/ルイビル、アフリカ/ケンタッキー/モンテシエロ、アフリカ/ノックス\_IN、アフリカ/クラレンダイク、アフリカ/ラパス、アフリカ/リマ、アフリカ/ロサンゼルス、アフリカ/ルイビル、アフリカ/ローワープリンズ、アフリカ/マセイオ、アフリカ/マナグア、アフリカ/マナウス、アフリカ/マリゴ、アフリカ/マルティニ

ーク、アメリカ/マタモロス、アメリカ/マサトラン、アメリカ/メンドーサ、アメリカ/メノミニー、アメリカ/メリダ、アメリカ/メトラカトラ、アメリカ/メキシコシティ、アメリカ/マイクロ、アメリカ/モンクトン、アメリカ/モンテレイ、アメリカ/モンテビデオ、アメリカ/モントリオール、アメリカ/モントセラト、アメリカ/ナッソー、アメリカ/ニューヨーク、アメリカ/ニピゴン、アメリカ/ノーム、アメリカ/ノローニヤ、アメリカ/ノースダコタ/ビューラー、アメリカ/ノースダコタ/センター、アメリカ/ノースダコタ/ニューセーラム、アメリカ/ヌック、アメリカ/オヒナガ、アメリカ/パナマ、アメリカ/バングニルトン、アメリカ/パラマリボ、アメリカ/フェニックス、アメリカ/ポルトーブランド、アメリカ/ポートオブスペイン、アメリカ/ポルトアクレ、アメリカ/ポルトベリヨ、アメリカ/プエルトリコ、アメリカ/プンタアレナス、アメリカ/レイニリーバー、アメリカ/ランキンインレット、アメリカ/レシフェ、アメリカ/レジーナ、アメリカ/レゾリュート、アメリカ/ロブランコ、アメリカ/ロサリオ、アメリカ/サンタイサベル、アメリカ/サンタレン、アメリカ/サンティアゴ、アメリカ/サントドミンゴ、アメリカ/サンパウロ、アメリカ/スコルズビズ、アメリカ/シブロック、アメリカ/シトカ、アメリカ/サンバルテルミー、アメリカ/セントジョーンズ、アメリカ/セントキッツ、アメリカ/セントルシア、アメリカ/セントトーマス、アメリカ/セントビンセント、アメリカ/スウィフトカレント、アメリカ/テグシガルバ、アメリカ/チューレ、アメリカ/サンダーベイ、アメリカ/ティファナ、アメリカ/トロント、アメリカ/トルトラ島、アメリカ/バンクーバー、アメリカ/ヴァージン、アメリカ/ホワイトホース、アメリカ/ウイニペグ、アメリカ/ヤクタット、アメリカ/イエローナイフ、南極/ケーシー、南極/デイビス、南極/デューモンデュルビル、南極/マッコリー、南極/モーション、南極/マクマード、南極/パーマー、南極/ロゼラ、南極/南極点、南極/昭和、南極/トロール、南極/ポストーク、北極/ロンクイェールピーン、アジア/アテン、アジア/アルマトイ、アジア/アンマン、アジア/アナティル、アジア/アクタウ、アジア/アクトベ、アジア/アシガバート、アジア/アシハバード、アジア/アティラウ、アジア/バグダッド、アジア/バーレーン、アジア/バクー、アジア/バンコク、アジア/バルナウル、アジア/バイルート、アジア/ビシュケク、アジア/ブルネイ、アジア/カルカッタ、アジア/チタ、アジア/チョイバルサン、アジア/重慶 (Chongqing)、アジア/重慶 (Chungking)、アジア/コロμπο、アジア/ダッカ、アジア/ダマスカス、アジア/ダッカ、アジア/ディリ、アジア/ドバイ、アジア/ドゥシャンベ、アジア/ファマグスタ、アジア/ガザ、アジア/ハルビン、アジア/ハブロン、アジア/ホーチミン、アジア/香港特別行政区、アジア/ホブド、アジア/イルクーツク、アジア/イスタンブール、アジア/ジャカルタ、アジア/ジャヤブラ、アジア/エルサレム、アジア/カブール、アジア/カムチャツカ、アジア/カラチ、アジア/カシュガル、アジア/カトマンズ、アジア/カトマンズ、アジア/カンディガ、アジア/コルカタ、アジア/クラスノヤルスク、アジア/クアラルンプール、アジア/クチン、アジア/クウェート、アジア/マカオ、アジア/マカウ、アジア/マガダ、アジア/マカッサル、アジア/マニラ、アジア/マスカット、アジア/ニコシア、アジア/ノウォクスネツク、アジア/ノシビルスク、アジア/オムスク、アジア/オーラル、アジア/プノンペン、アジア/ポンティアナック、アジア/平壤、アジア/カタール、アジア/コスタナイ、アジア/クスロルダ、アジア/ランゲーン、アジア/リヤド、アジア/サイゴン、アジア/サハリン、アジア/サマルカンド、アジア/ソウル、アジア/上海、アジア/シンガポール、アジア/スレドネコリムスク、アジア/台北、アジア/ダシケント、アジア/トビリシ、アジア/テヘラン、アジア/テルアビブ、アジア/チンブー、アジア/ティンブー、アジア/東京、アジア/トムスク、アジア/ウジュンパンダン、アジア/ウランバートル、アジア/ウランバートル、アジア/ウルムチ、アジア/ウスチネラ、アジア/ビエンチャン、アジア/ウラジオストク、アジア/ヤクーツク、アジア/ヤンゴン、アジア/エカテリンプルク、アジア/エレバン、大西洋/アゾレス諸島、大西洋/バミューダ、大西洋/カナリア、大西洋/カーボベルデ、大西洋/フェロー (Faeroe)、大西洋/フェロー (Faroe)、大西洋/ヤンマイエン、大西洋/マデイラ諸島、大西洋/レイキャビク、大西洋/サウスジョージア、大西洋/セントヘレナ、大西洋/スタンリー、オーストラリア/ACT、オーストラリア/アデレード、オーストラリア/ブリスベン、オーストラリア/ブローケンヒル、オーストラリア/キャンベラ、オーストラリア/カリー、オーストラリア/ダーウィン、オーストラリア/ユークラ、オーストラリア/ホバート、オーストラリア/LHI、オーストラリア/リンデマン、オーストラリア/ロードハウ、オーストラリア/メルボルン、オーストラリア/NSW、オーストラリア/北部、オーストラリア/パース、オーストラリア/クイーンズランド、オーストラリア/南部、オーストラリア/シドニー、オーストラリア/タスマニア、オーストラリア/ビクトリア、オースト

ラリア/西部、オーストラリア/ヤンコウイナ、ブラジル/エーカー、ブラジル/デノローニヤ、ブラジル/東部、ブラジル/西部、CET、CST6CDT、カナダ/大西洋、カナダ/中部、カナダ/東部、カナダ/山岳部、カナダ/ニューファンドランド、カナダ/太平洋、カナダ/サスカチュワン、カナダ/ユーコン、チリ/コンチネンタル、チリ/イースター島、キューバ、EET、EST、EST5EDT、エジプト、エール、Etc/GMT、Etc/GMT+0、Etc/GMT+1、Etc/GMT+10、Etc/GMT+11、Etc/GMT+12、Etc/GMT+2、Etc/GMT+3、Etc/GMT+4、Etc/GMT+5、Etc/GMT+6、Etc/GMT+7、Etc/GMT+8、Etc/GMT+9、Etc/GMT-0、Etc/GMT-1、Etc/GMT-10、Etc/GMT-11、Etc/GMT-12、Etc/GMT-13、Etc/GMT-14、Etc/GMT-2、Etc/GMT-3、Etc/GMT-4、Etc/GMT-5、Etc/GMT-6、Etc/GMT-7、Etc/GMT-8、Etc/GMT-9、Etc/GMT0、Etc/グリニッジ、Etc/UCT、Etc/UTC、Etc/Universal、Etc/Zulu、ヨーロッパ/アムステルダム、ヨーロッパ/アンドラ、ヨーロッパ/アストラハン、ヨーロッパ/アテネ、ヨーロッパ/ベルファスト、ヨーロッパ/ベオグラード、ヨーロッパ/ベルリン、ヨーロッパ/ブラチスラバ、ヨーロッパ/ブリュッセル、ヨーロッパ/ブカレスト、ヨーロッパ/ブダペスト、ヨーロッパ/ビュージゲン、ヨーロッパ/キシノウ、ヨーロッパ/コペンハーゲン、ヨーロッパ/ダブリン、ヨーロッパ/ジブラルタル、ヨーロッパ/ガンジー、ヨーロッパ/ヘルシンキ、ヨーロッパ/マン島、ヨーロッパ/イスタンブール、ヨーロッパ/ジャージー、ヨーロッパ/カリニングラード、ヨーロッパ/キーウ (Kiev)、ヨーロッパ/キーロフ、ヨーロッパ/キーウ (Kyiv)、ヨーロッパ/リスボン、ヨーロッパ/リュブリャナ、ヨーロッパ/ロンドン、ヨーロッパ/ルクセンブルク、ヨーロッパ/マドリッド、ヨーロッパ/マルタ、ヨーロッパ/マリエハムン、ヨーロッパ/ミンスク、ヨーロッパ/モナコ、ヨーロッパ/モスクワ、ヨーロッパ/ニコシア、ヨーロッパ/オスロ、ヨーロッパ/パリ、ヨーロッパ/ポドゴリツァ、ヨーロッパ/プラハ、ヨーロッパ/リガ、ヨーロッパ/ローマ、ヨーロッパ/サマラ、ヨーロッパ/サンマリノ、ヨーロッパ/サラエボ、ヨーロッパ/サラトフ、ヨーロッパ/シンフェロポリ、ヨーロッパ/スコピエ、ヨーロッパ/ソフィア、ヨーロッパ/ストックホルム、ヨーロッパ/タリン、ヨーロッパ/ティラン、ヨーロッパ/ティラスポリ、ヨーロッパ/ウリヤノフスク、ヨーロッパ/ウジゴロド、ヨーロッパ/フアドゥーツ、ヨーロッパ/バチカン、ヨーロッパ/ウィーン、ヨーロッパ/ビリニウス、ヨーロッパ/ヴォルゴグラード、ヨーロッパ/ワルシャワ、ヨーロッパ/ザグレブ、ヨーロッパ/ザポリージャ、ヨーロッパ/チューリッヒ、GB、GB-Eire、GMT、GMT+0、GMT-0、GMT0、グリニッジ、HST、香港、アイスランド、インド/アンタナナリボ、インド/チャゴス、インド/クリスマス、インド/ココス、インド/コモロ、インド/ケルゲレン、インド/マヘ、インド/モルディブ、インド/モーリシャス、インド/マヨット、インド/レユニオン、イラン、イスラエル、ジャマイカ、日本、クェゼリン環礁、リビア、MET、MST、MST7MDT、メキシコ/バハノルテ、メキシコ/バハスール、メキシコ/一般、ニュージーランド、NZ-CHAT、ナバホ、中華人民共和国、PST8PDT、太平洋/アビア、太平洋/オークランド、太平洋/ブーゲンビル、太平洋/チャタム、太平洋/チューク、太平洋/イースター、太平洋/エファテ、太平洋/エンダーベリー、太平洋/ファカオフォ、太平洋/フィジー、太平洋/フナフティ、太平洋/ガラバゴス、太平洋/ガンビア、太平洋/ガダルカナル、太平洋/グアム、太平洋/ホルルル、太平洋/ジョンストン、太平洋/カントン、太平洋/キリティマティ、太平洋/コスラエ、太平洋/クェゼリン環礁、太平洋/マジュロ、太平洋/マルケサス、太平洋/ミッドウェイ、太平洋/ナウル、太平洋/ニウエ、太平洋/ノーフォーク、太平洋/ヌメア、太平洋/パゴパゴ、太平洋/パラオ、太平洋/ピトケアン、太平洋/ポンペイ、太平洋/ボナベ、太平洋/ポートモレスビー、太平洋/ラロトンガ、太平洋/サイパン、太平洋/サモア、太平洋/タヒチ、太平洋/タラワ、太平洋/トンガタプ、太平洋/チューク、太平洋/ウェイク、太平洋/ウォリス、太平洋/ヤップ、ポーランド、ポルトガル、中華民国、韓国、シンガポール、トルコ、UCT、米国/アラスカ、米国/アリゾナ州、米国/アラスカ、米国/中部、米国/イーストインディアナ、米国/東部、米国/ハワイ州、米国/インディアナスターク、米国/ミシガン州、米国/山岳部、米国/太平洋、米国/サモア、UTC、ユニバーサル、W-SU、WET、Zulu

リストからタイムゾーンを選択します。

## UserInterface の設定

### xConfiguration UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスで実行する永続 Web アプリケーションの URL を設定します。アプリケーションは画面全体に表示され、ユーザーが閉じることはできません。

アプリがデバイスの API と対話する場合は、Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed を True に設定し、アプリをホストするサーバーのドメイン名を WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts 設定の許可リストに追加することに注意してください。

使用方法:

xConfiguration UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL: "URL"

説明:

URL: 文字列 (0, 2048) - デフォルト値: ""

Web アプリケーションの URL です。

### xConfiguration UserInterface KeyTones Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

テキストまたは数値を入力する際に、キーボード クリック効果音 (キー トーン) が鳴るようにデバイスを設定できます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On - デフォルト値: On

**Off**: キー トーンは再生されません。

**On**: キー トーンがオンになります。

## xConfiguration UserInterface Language

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

ユーザーインターフェイスで使用される言語を選択します。該当する言語がサポートされていない場合、デフォルトの言語 (Medium) が使用されます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Language: Language

説明:

Language: アラビア語/カタロニア語/中国語簡体字/中国語繁体字/チェコ語/デンマーク語/オランダ語/英語/英語 (英国) /フィンランド語/フランス語/フランス・カナダ語/ドイツ語/ヘブライ語/ハンガリー語/イタリア語/日本語/韓国語/ノルウェー語/ポーランド語/ポルトガル語/ポルトガル・ブラジル/ロシア語/スペイン・ラテン語/スウェーデン語/トルコ語/ウクライナ語 - デフォルト値: 英語

リストから言語を選択します。

## xConfiguration UserInterface LedControl Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

Room Navigator の壁掛けバージョンには LED ライトが付いています。それらの制御方法を設定できます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface LedControl Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual/Off - デフォルト値: **Auto**

**Auto**: デバイスは、通常、部屋の予約状態に基づいて LED ライトを自動的に制御します (たとえば、緑: 利用可能な部屋、赤: 使用中の部屋)。UserInterface LedControl Color Set Color コマンドは無効です。

**Manual**: UserInterface LedControl Color Set Color コマンドを使用して、LED ライトを制御し、色を設定できます。

**Off**: LED ライトは常時オフになります。

## xConfiguration UserInterface Security Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Security Mode: Mode

説明:

## xConfiguration UserInterface SettingsMenu Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface SettingsMenu Mode: Mode

説明:

## xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility

必要なユーザー ロール: ADMIN

スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility: Visibility

説明:

## UserManagement の設定

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある数字 (0 ~ 9) の最小文字数を指定します。

#### 使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity  
MinimumDigits: MinimumDigits
```

#### 説明:

MinimumDigits: 整数 (0 ~ 4) - デフォルト値: 0  
数字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードの最小文字数を指定します。

#### 使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity  
MinimumLength: MinimumLength
```

#### 説明:

MinimumLength: 整数 (0 ~ 256) - デフォルト値: 8  
文字の最小数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある小文字の最小文字数を指定します。

#### 使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity  
MinimumLowercase: MinimumLowercase
```

#### 説明:

MinimumLowercase: 整数 (0..4) - デフォルト値: 0  
小文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある特殊文字の最小文字数を指定します。

#### 使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity  
MinimumSpecial: MinimumSpecial
```

#### 説明:

MinimumSpecial: 整数 (0 ~ 4) - デフォルト値: 0  
特殊文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある大文字の最小文字数を指定します。

使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity  
MinimumUppercase: MinimumUppercase
```

説明:

MinimumUppercase: 整数 (0..4) - デフォルト値: 0

大文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードが無効になるまでの最大日数を指定します。

使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime: MaxLifetime
```

説明:

MaxLifetime: 整数 (0 ~ 7300) - デフォルト値: 0

最小日数。0 は制限がないことを意味します。

### xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy) ] 設定で設定されたルールに従う必要があります。新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、再使用の制限 (n) を指定します。つまり、ユーザーは、直前の n 個のパスワードを再使用することはできません。

使用方法:

```
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit: ReuseLimit
```

説明:

ReuseLimit: 整数 (0 ~ 24) - デフォルト値: 12

パスワードの最小数。0 は制限がないことを意味します。



## Video の設定

### xConfiguration Video Output Connector BrightnessMode

必要なユーザーロール: ADMIN、USER

画面の明るさを自動的に調整するか、固定値に設定するかを決定します。

使用方法:

```
xConfiguration Video Output Connector BrightnessMode: BrightnessMode
```

説明:

BrightnessMode: Auto/Manual - デフォルト値: **Auto**

**Auto**: デバイスは、周囲の光に応じて画面の明るさを自動的に調整します。

**Manual**: 画面の明るさレベルは、[ビデオ出力コネクタの明るさ値 (Video Output Connector BrightnessValue) ] 設定で設定されます。

### xConfiguration Video Output Connector BrightnessValue

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

Video Output Connector BrightnessMode が Manual に設定されている場合に使用する画面の明るさレベルを設定します。

使用方法:

```
xConfiguration Video Output Connector BrightnessValue: BrightnessValue
```

説明:

BrightnessValue: 整数 (0 ~ 100) - デフォルト値: **100**

明るさ (明るさの最大値、100) から暗色 (明るさの最小値、0) までの明るさのレベル。

## WebEngine の設定

### xConfiguration WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts

必要なユーザー ロール: ADMIN

永続的な Web アプリをホストしているサーバーのドメイン名がここにリストされている場合、アプリはデバイス上で API コマンドを実行することが許可されています。それ以外の場合は、デバイスとの通信を必要としないアプリケーションのみが実行できます。

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL 設定で指定された URL がチェックされ、許可されたホストのリストと一致した場合、デバイスでの API コマンドの実行が許可されます。

使用方法:

```
xConfiguration WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts  
Hosts: "Hosts"
```

説明:

Hosts: 文字列 (0、1024) - デフォルト値: ""

1 つ以上のドメイン名を指定します。複数の場合は、コンマで区切ります。「\*」をワイルドカードとして使用できます。たとえば、「\*.cisco.com」は、cisco.com で終わるすべてのホストを許可します。任意のドメインを許可するには、「\*」を指定します。

### xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web エンジンで許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

使用方法:

```
xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion: MinimumTLSVersion
```

説明:

MinimumTLSVersion: TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2 - デフォルト値: **TLSv1.1**

**TLSv1.0**: TLS バージョン 1.0 以降のサポート。

**TLSv1.1**: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

**TLSv1.2**: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

## xConfiguration WebEngine Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web エンジンは、Web アプリなど、デバイスの Web ビューを使用する機能が動作するための前提条件です。

### 使用方法:

xConfiguration WebEngine Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On - デフォルト値: **Off**

**Off**: Web エンジンが無効になります。

**On**: Web エンジンが有効になります。

## xConfiguration WebEngine RemoteDebugging

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることを推奨します。リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニターされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

使用後は、必ずリモート デバッグをオフにしてください。

### 使用方法:

xConfiguration WebEngine RemoteDebugging: RemoteDebugging

説明:

RemoteDebugging: Off/On - デフォルト値: **Off**

**Off**: リモート デバッグがオフに切り替わります。

**On**: リモート デバッグがオンに切り替わります。

## xConfiguration WebEngine UseHttpProxy

必要なユーザー ロール: ADMIN

WebEngine UseHttpProxy 設定は、Web アプリケーションなどの Web ビューベースの機能が HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバーをセットアップする必要があります。

### 使用方法:

xConfiguration WebEngine UseHttpProxy: UseHttpProxy

説明:

UseHttpProxy: Off/On - デフォルト値: **On**

**Off**: サーバーとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

**On**: プロキシ経由の通信をセットアップします。

## コマンド

<b>Bookings コマンド</b> .....	<b>28</b>	xCommand SystemUnit SetTouchPanelMode .....	38
xCommand Bookings Book .....	28	xCommand SystemUnit SignInBanner Clear .....	38
xCommand Bookings Clear .....	28	xCommand SystemUnit SignInBanner Get .....	38
xCommand Bookings Delete .....	28	xCommand SystemUnit SignInBanner Set .....	38
xCommand Bookings Get .....	28	xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear .....	38
xCommand Bookings List .....	29	xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get .....	38
xCommand Bookings NotificationSnooze .....	29	xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set .....	38
xCommand Bookings Put .....	29		
xCommand Bookings Respond .....	30	<b>Time コマンド</b> .....	<b>39</b>
<b>Diagnostics コマンド</b> .....	<b>31</b>	xCommand Time DateTime Get .....	39
xCommand Diagnostics Run .....	31	xCommand Time DateTime Set .....	39
<b>Logging コマンド</b> .....	<b>31</b>	<b>UserInterface コマンド</b> .....	<b>39</b>
xCommand Logging SendLogs .....	31	xCommand UserInterface LedControl Color Set .....	39
<b>Provisioning コマンド</b> .....	<b>32</b>	xCommand UserInterface WebView Display .....	39
xCommand Provisioning CompleteUpgrade .....	32	<b>UserManagement コマンド</b> .....	<b>40</b>
xCommand Provisioning PostponeUpgrade .....	32	xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create .....	40
xCommand Provisioning SetType .....	32	xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete .....	40
<b>Security コマンド</b> .....	<b>32</b>	xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently .....	40
xCommand Security Certificates CA Add .....	32	xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState .....	40
xCommand Security Certificates CA Delete .....	32	xCommand UserManagement User Add .....	40
xCommand Security Certificates CA Show .....	32	xCommand UserManagement User Delete .....	41
xCommand Security Certificates Services Activate .....	33	xCommand UserManagement User Get .....	41
xCommand Security Certificates Services Add .....	33	xCommand UserManagement User List .....	41
xCommand Security Certificates Services Deactivate .....	33	xCommand UserManagement User Modify .....	42
xCommand Security Certificates Services Delete .....	33	xCommand UserManagement User Passphrase Change .....	42
xCommand Security Certificates Services Show .....	34	xCommand UserManagement User Passphrase Set .....	42
xCommand Security Certificates ThirdParty Disable .....	34	xCommand UserManagement User Unblock .....	43
xCommand Security Certificates ThirdParty Enable .....	34	<b>WebEngine コマンド</b> .....	<b>43</b>
xCommand Security Certificates ThirdParty List .....	34	xCommand WebEngine DeleteStorage .....	43
xCommand Security Certificates ThirdParty Show .....	35	<b>Webex コマンド</b> .....	<b>44</b>
xCommand Security Certificates Webex Show .....	35	xCommand Webex Registration Cancel .....	44
xCommand Security Certificates WebexIdentity Show .....	35	xCommand Webex Registration Start .....	44
xCommand Security Ciphers List .....	35		
xCommand Security ClientSecret Populate .....	36		
xCommand Security Persistency .....	36		
xCommand Security Session Get .....	36		
xCommand Security Session List .....	36		
xCommand Security Session Terminate .....	36		
<b>SystemUnit コマンド</b> .....	<b>37</b>		
xCommand SystemUnit Boot .....	37		
xCommand SystemUnit DeveloperPreview Activate .....	37		
xCommand SystemUnit DeveloperPreview Deactivate .....	37		
xCommand SystemUnit FactoryReset .....	37		

ソフトウェアバージョン: RoomOS 11.3.1

## Bookings コマンド

### xCommand Bookings Book

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

指定された期間の会議室を予約します。開始時間と期間を指定しない場合、部屋は今から 30 分間予約されます。

このコマンドは、会議室のスケジュール機能をサポートするデバイスでのみ使用できます。「RoomScheduler Enabled 設定」を参照してください。

#### 使用方法:

```
xCommand Bookings Book [BookingRequestUUID: "BookingRequestUUID"] [Duration: Duration] [StartTime: "StartTime"] [Title: "Title"]
```

#### 説明:

BookingRequestUUID: 文字列 (1、128)

予約リクエストの一意の識別子。このパラメータを省略すると、予約リクエスト識別子が自動的に割り当てられます。

Duration: 整数 (0 ~ 1440) - デフォルト値: 30

分単位の会議時間。

StartTime: 文字列 (1、128)

YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ の UTC 形式で会議の開始時間。例: 2021-01-24T01:29:00Z。

Title: 文字列 (1、128)

カレンダー予約のタイトルまたは件名フィールド。これは、今日の予約リストの画面にも表示されます。

### xCommand Bookings Clear

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

現在の予約の保存されたリストを消去します。

#### 使用方法:

```
xCommand Bookings Clear
```

### xCommand Bookings Delete

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

MeetingId パラメータで識別される会議を削除します。その後、その部屋は新規予約で利用できるようになります。

このコマンドは、会議室のスケジュール機能をサポートするデバイスでのみ使用できます。「RoomScheduler Enabled 設定」を参照してください。

#### 使用方法:

```
xCommand Bookings Delete MeetingId: "MeetingId"
```

#### 説明:

MeetingId: 文字列 (1、128)

一意の会議識別子。これは、カレンダーサービスのバックエンドによって会議に割り当てられます。会議識別子は、Bookings List コマンドによって返されます。これは、Bookings Book コマンドの発行時に提供される予約リクエスト識別子 (BookingRequestUUID) とは異なることに注意してください。

### xCommand Bookings Get

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

特定の ID の予約情報を表示します。

#### 使用方法:

```
xCommand Bookings Get Id: "Id"
```

#### 説明:

Id: 文字列 (1、128)

一意の会議識別子。これは、カレンダーサービスのバックエンドによって会議に割り当てられます。会議識別子は、Bookings List コマンドによって返されます。これは、Bookings Book コマンドの発行時に提供される予約リクエスト識別子 (BookingRequestUUID) とは異なることに注意してください。

## xCommand Bookings List

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスに保存された予約を表示します。予約の詳細のリストは管理システムから受信されます。すべてのパラメータはオプションで、検索結果を制限するために使用できます。

パラメータを設定しない場合、過去、現在、将来の予約がすべて表示されます。昨日より前の予約をリストしないようにするには、DayOffset = 0 を使用します。

### 使用方法:

```
xCommand Bookings List [Days: Days] [DayOffset: DayOffset] [Limit: Limit]  
[Offset: Offset]
```

### 説明:

Days: 整数 (1 ~ 365)

予約を取得する日数。

DayOffset: 整数 (0 ~ 365) - デフォルト値: 0

検索を開始する日 (今日: 0、明日: 1、...)。

Limit: 整数 (1 ~ 65534)

一覧表示する予約の最大数。

Offset: 整数 (0 ~ 65534) : デフォルト値: 0

この検索用の予約のオフセット番号。

## xCommand Bookings NotificationSnooze

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

このデバイスに保存されている予約の通知をスヌーズに設定します。

### 使用方法:

```
xCommand Bookings NotificationSnooze [Id: "Id"] [SecondsToSnooze:  
SecondsToSnooze]
```

### 説明:

Id: 文字列 (0, 128)

通知のスヌーズ設定の ID。

SecondsToSnooze: 整数 (1 ~ 3600) - デフォルト値: 300

秒数で表されたスヌーズの期間。

## xCommand Bookings Put

必要なユーザー ロール: ADMIN

注: この API には、特別な利用規約があるので、『Room Navigator (スタンドアロン) の API ガイド』の「利用規約」項を参照してください。

保存されている予約のリストを置き換えます。これは、ペイロードとして保存された予約の詳細を含む複数行のコマンドです。

ミーティング情報は JSON 形式で提供されます。

例:

```
{  
  "Bookings": [  
    {  
      "Id": "1",  
      "Number": "number@example.com",  
      "Organizer": {  
        "Name": "John Smith"  
      },  
      "Protocol": "SIP",  
      "Time": {  
        "Duration": 60,  
        "EndTimeBuffer": 50,  
        "StartTime": "2024-06-04T08:40:42.300000000Z"  
      },  
      "Title": "Booking Title"  
    }  
  ]  
}
```

必須フィールドは、Id、Title、Number、Protocol、Organizer/Name、Time/StartTime、Time/Duration です。

StartTime: UTC/Zulu タイムでのミーティング開始時間。

Duration: 分単位の会議の時間。

StartTimeBuffer: 会議に参加できる会議開始時刻前の秒数。

EndTimeBuffer: 会議を継続できる、スケジュールされた時間 (StartTime + Duration) より長い秒数。

MeetingPlatform: 会議をホストするサービス。

JSON 構造は、次のフィールドをサポートします (一部のフィールドはスタンドアロンの Room Navigator には関係ありません)。

```
{
  { "Id", "id" },
  { "MeetingId", "MyMeeting" },
  { "Agenda", "MyAgenda" },
  { "Title", "MyBookingTitle" },
  { "Privacy", "Private/Public" },
  { "Protocol", "SIP/H323/ISDN/IP/Spark/WebRTC" },
  { "MeetingPlatform", "GoogleMeet/MicrosoftTeams/Zoom/Webex/Other" },
  { "MetaInfo", "..." },
  { "Time", {
    { "StartTime", "2020-06-10T09:31:42Z"},
    { "Duration", 60 },
    { "StartTimeBuffer", 300 },
    { "EndTimeBuffer", 0 },
  }},
  { "Organizer", {
    { "Name", "John Smith" },
    { "Email", "johnsmith@example.com" },
    { "Id", "" },
  }},
  { "Number", "number@example.com" },
  { "CallType", "Audio/Video" },
  { "Encryption", "On/Off" }
}
```

**使用方法:**

xCommand Bookings Put

**xCommand Bookings Respond**

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

会議への招待を承認または辞退します。

**使用方法:**

xCommand Bookings Respond MeetingId: MeetingId Type: Type

**説明:**

MeetingId: 文字列 (1, 128)

会議の一意の識別子。

Type: Accept/Decline

**Accept**: 会議室が指定された会議への招待を承諾します。

**Decline**: 会議室が指定された会議への招待を辞退します。

## Diagnostics コマンド

### xCommand Diagnostics Run

必要なユーザーロール: ADMIN

このコマンドは、デバイス上で自己診断コマンドを実行します。

#### 使用方法:

```
xCommand Diagnostics Run [ResultSet: ResultSet]
```

#### 説明:

*ResultSet*: Alerts/All/None - デフォルト値: Alerts

診断結果を「Alerts」、「All」、または「None」にフィルタリングできます。設定しなかった場合は、すべての結果が表示されます。

## Logging コマンド

### xCommand Logging SendLogs

必要なユーザーロール: ADMIN, USER

Webex クラウドにログを送信します。これらのログは、デバイスの問題を診断および修正するのに役立ちます。

このコマンドはログ ID を返します。管理者や TAC エンジニアがログを識別してダウンロードするために使用することができます。

#### 使用方法:

```
xCommand Logging SendLogs
```

## Provisioning コマンド

### xCommand Provisioning CompleteUpgrade

必要なユーザーロール: ADMIN、USER

ソフトウェアのアップグレードを設定する前にアップグレードをインストールする必要がある場合に、アップグレードのインストールを開始します。

使用方法:

```
xCommand Provisioning CompleteUpgrade
```

### xCommand Provisioning PostponeUpgrade

必要なユーザーロール: ADMIN、USER

ソフトウェア アップグレードのインストールを延期します。

使用方法:

```
xCommand Provisioning PostponeUpgrade [Reason: "Reason"] SecondsToPostpone:  
SecondsToPostpone
```

説明:

Reason: 文字列 (0, 255)

アップグレードが延期された理由に関する情報を提供します。

SecondsToPostpone: 整数 (0 ~ 65534)

アップグレードを延期する時間を設定します。値は秒単位です。

### xCommand Provisioning SetType

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR

Room Navigator は、ビデオ会議デバイスとペアリングすることも、スタンドアロンデバイスとして設定することもできます。このコマンドは、デバイスをオンボーディングするモード (ペアリングまたはスタンドアロン) を決定します。

ほとんどの場合、この情報は、デバイスを初めて設定するときにスタートアップウィザードに入力されます。モードを設定したら、モードを変更するにはデバイスを初期設定にリセットする必要があります。

使用方法:

```
xCommand Provisioning SetType Type: Type
```

説明:

Type: PairedToCodec/Standalone

**PairedToCodec**: Room Navigator はペアモードでオンボーディングされます。

**Standalone**: Room Navigator はスタンドアロンモードでオンボーディングされます。

## Security コマンド

### xCommand Security Certificates CA Add

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスに CA セキュリティ証明書をアップロードします。これは複数行コマンドです。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates CA Add
```

### xCommand Security Certificates CA Delete

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスから CA セキュリティ証明書を削除します。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates CA Delete Fingerprint: "Fingerprint"
```

説明:

Fingerprint: 文字列 (0, 128)

削除される証明書の固有識別子。xCommand Security Certificates CA Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

### xCommand Security Certificates CA Show

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

このデバイス上の CA セキュリティ証明書の詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates CA Show [Format: Format]
```

説明:

Format: PEM/Text - デフォルト値: Text

リストされている証明書、PEM (プライベート拡張メール) またはプレーン テキストの形式を指定します。



## xCommand Security Certificates Services Activate

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイス上のセキュリティ証明書を有効化します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Activate Fingerprint: "Fingerprint"

Purpose: Purpose

説明:

Fingerprint: 文字列 (0、1024)

有効化される証明書の固有識別子 (ID)。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

Purpose: 802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/HttpProxy/Pairing/SIP/WebexIdentity

この証明書の目的。

**802.1X**: 802.1x セキュリティ認証を適用します。

**Audit**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**HTTPS**: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

**HttpClient**: xCommand HttpClient コマンドの使用時に相互 TLS 認証で使用します。

**HttpProxy**: このソフトウェアバージョンでは使用されていません。

**Pairing**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**SIP**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**WebexIdentity**: Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別するため。WebexIdentity の特定の証明書をアクティブ化します。この目的のために、このコマンドでは、暗号化するフィンガープリントを特定して JWE BLOB でシリアル化する必要があります。

## xCommand Security Certificates Services Add

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスにセキュリティ証明書をアップロードします。これは複数行コマンドです。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Add [PrivateKeyPassword:

PrivateKeyPassword"]

説明:

PrivateKeyPassword: String (0、128) - デフォルト値: ""

パスワードの秘密キーの詳細を保存します。

## xCommand Security Certificates Services Deactivate

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイス上のセキュリティ証明書を非アクティブ化します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Deactivate Fingerprint: "Fingerprint"

Purpose: Purpose

説明:

Fingerprint: 文字列 (0、1024)

非アクティブ化される証明書の固有識別子。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

Purpose: 802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/HttpProxy/Pairing/SIP/WebexIdentity

この証明書の目的。

**802.1X**: 802.1x セキュリティ認証を適用します。

**Audit**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**HTTPS**: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

**HttpClient**: xCommand HttpClient コマンドの使用時に相互 TLS 認証で使用します。

**HttpProxy**: このソフトウェアバージョンでは使用されていません。

**Pairing**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**SIP**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**WebexIdentity**: Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別するため。WebexIdentity の特定の証明書をアクティブ化します。この目的のために、このコマンドでは、暗号化するフィンガープリントを特定して JWE BLOB でシリアル化する必要があります。

## xCommand Security Certificates Services Delete

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスからセキュリティ証明書を削除します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Delete Fingerprint: "Fingerprint"

説明:

Fingerprint: 文字列 (0、128)

削除される証明書の固有識別子。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

## xCommand Security Certificates Services Show

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

このデバイス上のセキュリティ証明書の詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates Services Show [Filter: Filter]  
[FingerprintAlgorithm: FingerprintAlgorithm] [Format: Format]
```

説明:

Filter: 802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/HttpProxy/Pairing/SIP/WebexIdentity

この証明書の目的。

**802.1X**: 802.1x セキュリティ認証を適用します。

**Audit**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**HTTPS**: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

**HttpClient**: xCommand HttpClient コマンドの使用時に相互 TLS 認証で使用します。

**HttpProxy**: このソフトウェアバージョンでは使用されていません。

**Pairing**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**SIP**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**WebexIdentity**: Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別するため、WebexIdentity の特定の証明書をアクティブ化します。この目的のために、このコマンドでは、暗号化するフィンガープリントを特定して JWE BLOB でシリアル化する必要があります。

FingerprintAlgorithm: SHA-1/SHA-256: デフォルト値: **SHA-1**

証明書用のフィンガープリントを生成するときに使用するハッシュ関数を指定します。

SHA-1: SHA-1 ハッシュ関数が使用されます。

SHA-256: SHA-256 ハッシュ関数を使用します (ハッシュ関数の SHA-2 群から)。

Format: PEM/Text - デフォルト値: **Text**

リストされている証明書、PEM (プライベート拡張メール) またはプレーン テキストの形式を指定します。

## xCommand Security Certificates ThirdParty Disable

必要なユーザー ロール: ADMIN

SMTP および HttpClient に使用されているバンドルされた証明書を無効にします。

このルート証明書で署名された証明書を提供しているサーバが証明書を無効にすると、その結果は拒否されます。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates ThirdParty Disable Fingerprint: "Fingerprint"
```

説明:

Fingerprint: 文字列 (0, 128)

無効にされる証明書の固有識別子。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

## xCommand Security Certificates ThirdParty Enable

必要なユーザー ロール: ADMIN

SMTP および HttpClient に使用されているバンドルされた証明書を有効にします。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates ThirdParty Enable Fingerprint: "Fingerprint"
```

説明:

Fingerprint: 文字列 (0, 128)

有効にされる証明書の固有識別子。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

## xCommand Security Certificates ThirdParty List

必要なユーザー ロール: ADMIN

バンドルされているすべての証明書とその状態を一覧表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates ThirdParty List
```

### xCommand Security Certificates ThirdParty Show

必要なユーザー ロール: ADMIN

単一のサードパーティ証明書を表示します。

#### 使用方法:

```
xCommand Security Certificates ThirdParty Show Fingerprint: "Fingerprint"  
[Format: Format]
```

#### 説明:

Fingerprint: 文字列 (0、128)

表示する証明書に対する一意の識別子。xCommand Security Certificates Services Show を実行することにより、フィンガープリント ID を取得できます。

Format: PEM/Text - デフォルト値: **Text**

リストされている証明書、PEM (プライバシー拡張メール) またはプレーン テキストの形式を指定します。

### xCommand Security Certificates Webex Show

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

このコマンドは、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

Webex クラウドで使用されているサーバーとサービスの証明書を検証する、信頼された CA 証明書のリストを表示します。

#### 使用方法:

```
xCommand Security Certificates Webex Show [Filter: Filter] [Format: Format]
```

#### 説明:

Filter: Cisco/Non-Cisco/TLS-proxy

Cisco: Cisco が提供するサーバおよびサービスと通信するときに使用される CA 証明書のリストを表示します。

Non-Cisco: Cisco 以外の提供サーバおよびサービスと通信するときに使用される CA 証明書のリストを表示します。

TLS-proxy: TLS を使用して送信トラフィック用のプロキシを検査するときに必要な追加の CA 証明書の一覧が表示されます。

Format: PEM/Text - デフォルト値: **Text**

リストされている証明書、PEM (プライバシー拡張メール) またはプレーン テキストの形式を指定します。

### xCommand Security Certificates WebexIdentity Show

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

このコマンドは、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。Webex Identity のルート認証局 (CA) リストを表示します。

#### 使用方法:

```
xCommand Security Certificates WebexIdentity Show [Filter: Filter] [Format: Format]
```

#### 説明:

Filter: External/Internal

**External**: 内部認証局のリストを表示します。

**Internal**: 外部認証局のリストを表示します。

Format: PEM/Text - デフォルト値: **Text**

リストされている証明書、PEM (プライバシー拡張メール) またはプレーン テキストの形式を指定します。

### xCommand Security Ciphers List

必要なユーザー ロール: ADMIN

さまざまなサービス (ドメイン) でサポートされている暗号を一覧表示します。結果:

Name: ドメイン名。

- \* Syslog-TLS: TLS 経由のロギングに使用されます。
- \* HTTPS サーバー: デバイス自身の Web サーバーによって使用されます。
- \* HTTPS クライアント: デバイスからのすべての https クライアントトラフィックに使用されます。
- \* ペアリング: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。
- \* SIP TLS: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

Cipherlist: TLS ライブラリに「送信される実際の暗号リストの文字列。

暗号: TLS 標準名による暗号のスペース区切りリスト。

#### 使用方法:

```
xCommand Security Ciphers List
```

### xCommand Security ClientSecret Populate

必要なユーザー ロール: ADMIN

このコマンドは、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。デバイスにクライアントシークレットを初めてシードするために、base64url でエンコードされたプレーンテキスト値を受け入れます。

初回以降にシークレットを更新するには、古いシークレットによって暗号化された新しいシークレットを含む JWE BLOB を提供する必要があります。

これは複数行コマンドです。

使用方法:

```
xCommand Security ClientSecret Populate Secret: "Secret"
```

説明:

Secret: 文字列 (0、1024)

First time: base64url でエンコードされたプレーンテキスト値を指定します。

**Thereafter**: 古いシークレットで暗号化された新しいシークレットを含む JWE blob を指定します。

### xCommand Security Persistency

必要なユーザー ロール: ADMIN

以下の機能を永続モードまたは非永続モードに設定します。非永続モードでは、特定の機能によって収集された情報はデバイスの再起動後まで維持されません。デフォルトは永続モードです。このコマンドはデバイスをリブートします。

使用方法:

```
xCommand Security Persistency Configurations: Configurations InternalLogging: InternalLogging DHCP: DHCP ConfirmAndReboot: ConfirmAndReboot
```

説明:

Configurations: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、デバイスを再起動するとすべての設定がデフォルトに戻ります。

InternalLogging: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、デバイスを再起動するとイベント ログが削除されます。

DHCP: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、デバイスを再起動するとすべての IP 関連の情報が削除されます。

ConfirmAndReboot: Yes

デバイスをリブートします。

### xCommand Security Session Get

必要なユーザー ロール: ADMIN、AUDIT、INTEGRATOR、ROOMCONTROL、USER

現在のセッションの詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Session Get
```

### xCommand Security Session List

必要なユーザー ロール: ADMIN

アクティブなセッションの一覧を表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Session List
```

### xCommand Security Session Terminate

必要なユーザー ロール: ADMIN

セッションを終了します。

使用方法:

```
xCommand Security Session Terminate SessionId: "SessionId"
```

説明:

SessionId: 文字列 (0、32)

セッション ID 番号。

## SystemUnit コマンド

### xCommand SystemUnit Boot

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスをリブートします。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit Boot [Action: Action] [Force: Force]
```

説明:

Action: Restart/Shutdown - デフォルト値: **Restart**

デフォルトでは、リブート後にデバイスが再起動されます。Shutdown を選択すると、デバイスは再起動しません。

Force: False/True - デフォルト値: **True**

デフォルトでは、デバイスが使用されているかどうかに関係なく、デバイスはすぐに再起動します。False を選択すると、デバイスは使用されていない場合 (つまり、アイドル、スタンバイ、またはハーフウェイクモード) のみ再起動します。

### xCommand SystemUnit DeveloperPreview Activate

必要なユーザー ロール: ADMIN

developer preview モードをアクティブ化します。developer preview モードがアクティブな場合で、DeveloperPreview オプションキーがインストールされている場合、public-api-preview xAPI ノードにアクセスできます。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit DeveloperPreview Activate
```

### xCommand SystemUnit DeveloperPreview Deactivate

必要なユーザー ロール: ADMIN

developer preview モードを非アクティブ化します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit DeveloperPreview Deactivate
```

### xCommand SystemUnit FactoryReset

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

工場出荷時設定にコーデックをリセットします。コールのログは削除され、デバイス パラメータはすべてデフォルト値にリセットされます。コーデックにアップロードされていたファイルは、すべて削除されます。オプション キーは影響を受けません。デバイスを工場出荷時状態にリセットするときに保持する設定とファイルを選択するには、Keep パラメータを使用します。

デフォルトでは工場出荷時状態にリセットするとデバイスは再起動しますが、別の TrailingAction の選択によって、他の動作を強制できます。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit FactoryReset Confirm: Confirm [Keep: Keep]  
[TrailingAction: TrailingAction]
```

説明:

Confirm: Yes

これを含めると、選択内容を確認します。

Keep: Certificates/HTTP/LocalSetup/Network/Provisioning/RemoteSupportUser/Webex

デバイスを初期設定にリセットする際に、保持する設定とファイルを選択します。

**Certificates:**

クライアントと CA 証明書。

**HTTP:**

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode

xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion

xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

**LocalSetup:**

xConfiguration Time Zone

xConfiguration UserInterface Language

**Network:**

xConfiguration Network 1 \*

**Provisioning:**

xConfiguration Provisioning Mode

**RemoteSupportUser:**

リモートサポートユーザー (存在する場合)。

**Webex:**

xConfiguration Spark ServiceOverrides GdsBaseUrl

xConfiguration Spark ServiceOverrides U2CBaseUrl

TrailingAction: NoAction/Restart/Shutdown - デフォルト値: **Restart**

デフォルトの動作 (Restart) を上書きするには、Shutdown または NoAction を選択します。

## xCommand SystemUnit SetTouchPanelMode

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR

Room Navigator は、ビデオ会議デバイスのユーザインターフェイス、ルーム予約デバイス、または永続的な Web アプリの表示にすることができます。画面に表示される情報、ボタン、操作はモードによって異なります。このコマンドは、これらのどのモードで Room Navigator をオンボーディングするかを決定します。コントローラモードは、ビデオ会議デバイスとペアリングされている場合にのみ使用できます。他のモードは、ペアリング時とスタンドアロン時の両方で使用できます。

ほとんどの場合、この情報は、デバイスを初めて設定するときにスタートアップウィザードに入力されます。モードを設定したら、モードを変更するにはデバイスを初期設定にリセットする必要があります。

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit SetTouchPanelMode Mode: Mode
```

説明:

Mode: Controller/Scheduler/PersistentWebApp

**Controller**: Room Navigator は、ビデオ会議デバイスの標準ユーザーインターフェイスです。

**Scheduler**: Room Navigator は、部屋の予約に使用されます。

**PersistentWebApp**: サードパーティ Web アプリケーション (永続 Web アプリケーション) が Room Navigator で実行されています。

## xCommand SystemUnit SignInBanner Clear

必要なユーザー ロール: ADMIN

xCommand SystemUnit SignInBanner Set で設定されたサインイン バナーをクリアします。

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Clear
```

## xCommand SystemUnit SignInBanner Get

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

xCommand SystemUnit SignInBanner Set で設定されたカスタム メッセージを取得します。

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Get
```

## xCommand SystemUnit SignInBanner Set

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスに、ユーザーがログイン前に見るメッセージのログインバナーを設定します。これは複数行コマンドです。

以下を使用します。

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Set <enter>
```

```
Banner text <enter>
```

```
. <enter>
```

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Set
```

## xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear

必要なユーザー ロール: ADMIN

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set で設定されたウェルカム バナーをクリアします。

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear
```

## xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get

必要なユーザー ロール: ADMIN、AUDIT、INTEGRATOR、ROOMCONTROL、USER

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set で設定されたカスタム メッセージを取得します。

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get
```

## xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスに、ユーザーがログインした後に表示されるウェルカムバナーを設定します。バナーには作業開始に必要な情報や、設定の変更時に注意しなければならないことなどが含まれています。これは複数行コマンドです。

以下を使用します。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set <enter>
```

```
Banner text <enter>
```

```
. <enter>
```

### 使用方法:

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

## Time コマンド

### xCommand Time DateTime Get

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスから時刻と日付を読み出します。

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Get
```

### xCommand Time DateTime Set

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

NTP (ネットワーク タイム プロトコル) から取得できない場合に、デバイスの時刻と日付を設定します。

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Set [Year: Year] [Month: Month] [Day: Day] [Hour: Hour]  
[Minute: Minute] [Second: Second]
```

説明:

Year: 整数 (2015 ~ 2037)

Month: 整数 (1 ~ 12)

Day: 整数 (1 ~ 31)

Hour: 整数 (0 ~ 23)

Minute: 整数 (0 ~ 59)

Second: 整数 (0 ~ 59)

## UserInterface コマンド

### xCommand UserInterface LedControl Color Set

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Room Navigator の壁掛けバージョンには LED ライトが付いています。このコマンドを使用して、色を指定し、LED ライトを On または Off にします。

このコマンドを有効にするには、UserInterface LedControl Mode 設定を [手動 (Manual)] にする必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserInterface LedControl Color Set Color: Color
```

説明:

Color: Green/Off/Red/Yellow

**Off**: LED ライトを Off にします。

**Green/Red/Yellow**: 指定色で LED ライトを On にします。

### xCommand UserInterface WebView Display

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

Web ビューを開いて、URL によって指定された Web ページを表示します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WebView Display [Header: "Header"] [Options: "Options"]  
[Title: "Title"] Url: "Url"
```

説明:

Header: 文字列 (0、8192)

HTTP ヘッダー フィールド1 つのコマンドに 15 個の Header パラメータを追加できます。各パラメータは 1 つの [HTTP ヘッダー (HTTP header)] フィールドを保持しています。

Options: 文字列 (0、255)

このパラメータは、UI 拡張エディタを内部で使用するためのものです。スタンドアロンの Room Navigator には使用できません。

Title: 文字列 (0、255)

Web ページのタイトル

Url: 文字列 (0、2000)

Web ページの URL。

## UserManagement コマンド

### xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create

必要なユーザー ロール: ADMIN

テクニカル アシスタンス センター (TAC) がトラブルシューティングの際にデバイスにアクセスするために使用できる、リモート サポート ユーザ パスフレーズを作成します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create [ExpiryDays: ExpiryDays]
```

説明:

*ExpiryDays*: 整数 (1 ~ 31)

パスフレーズの有効性の期間を定義します。デフォルトは 7 日間です。

### xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete

必要なユーザー ロール: ADMIN

コマンド xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create で作成したリモート サポート ユーザを削除します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete
```

### xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently

必要なユーザー ロール: ADMIN

新しいリモート サポート ユーザの作成をディセーブルにします。リモート サポート ユーザーを再び有効にするには、デバイスを工場出荷時の状態にリセットする必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently Confirm: Confirm
```

説明:

*Confirm*: Yes

### xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState

必要なユーザーロール: ADMIN

リモート サポート ユーザが生成されている場合にその状態を取得します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState
```

### xCommand UserManagement User Add

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスに新しいユーザを追加します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Add [Active: Active] [ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"] Passphrase: "Passphrase" [PassphraseChangeRequired: PassphraseChangeRequired] Role: Role [ShellLogin: ShellLogin] Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

説明:

*Active*: False/True

このユーザーがアクティブユーザーかどうかを指定します。

*ClientCertificateDN*: 文字列 (0、255)

ユーザー名とパスワードではなくクライアント証明書を使用してログインするユーザーを識別します。

*Passphrase*: 文字列 (0、255)

ユーザーのパスフレーズ。

*PassphraseChangeRequired*: False/True

ユーザーが次のサインイン時にパスフレーズを変更する必要があるかどうかを指定します。

*Role*: Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

ユーザーのロールを設定します。複数の Role パラメータを追加することで、ユーザーに複数のロールを割り当てることができます。

*ShellLogin*: False/True

ユーザーがシェルログインを必要とするかどうかを指定します。

*Username*: 文字列 (0、127)

ユーザーのユーザー名。

*YourPassphrase*: 文字列 (0、255)

このコマンドの実行時にログインしているユーザーのパスフレーズ。



### xCommand UserManagement User Delete

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスからユーザを削除します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Delete Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

説明:

Username: 文字列 (0、127)

削除するユーザーのユーザー名。

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

このコマンドの実行時にログインしているユーザーのパスフレーズ。

### xCommand UserManagement User Get

必要なユーザーロール: ADMIN

このデバイス上のユーザーの詳細を表示します。ユーザーを識別するために、Username または ClientCertificateDN のいずれかを指定する必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Get [ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"]  
[Username: "Username"]
```

説明:

ClientCertificateDN: 文字列 (0、255)

ユーザー名とパスワードではなくクライアント証明書を使用してログインするユーザーを識別します。

Username: 文字列 (0、127)

ユーザー名を指定すると、特定のユーザの詳細を表示します。

### xCommand UserManagement User List

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイス上のユーザの一覧を表示します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User List [Limit: Limit] [Offset: Offset]
```

説明:

Limit: 整数 (0 ~ 65536) - デフォルト値: 0

表示されるユーザー数をこの数に制限します。0 は、制限がないことを意味します。つまり、すべてのユーザーがリストされます。

Offset: 整数 (0 ~ 65536) - デフォルト値: 0

指数 X から始まるレコードのリストを表示します。X は補正值です。つまり、最初の X-1 ユーザーは表示されません。

## xCommand UserManagement User Modify

必要なユーザー ロール: ADMIN

特定のユーザの詳細を変更します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Modify [Active: Active] [AddRole: AddRole]  
[ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"] [PassphraseChangeRequired:  
PassphraseChangeRequired] [RemoveRole: RemoveRole] [ShellLogin: ShellLogin]  
Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

説明:

Active: False/True

このユーザーがアクティブユーザーかどうかを指定します。

AddRole: Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

指定したユーザに新しいロールを追加します。

ClientCertificateDN: 文字列 (0、255)

ユーザー名とパスワードではなくクライアント証明書を使用してログインするユーザーを識別します。

PassphraseChangeRequired: False/True

ユーザーが次のサインイン時にパスワードを変更する必要があるかどうかを指定します。

RemoveRole: Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

指定したユーザーからロールを削除します。

ShellLogin: False/True

ユーザーがシェル ログインを必要とするかどうかを指定します。

Username: 文字列 (0、127)

ユーザーのユーザー名

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

このコマンドの実行時にログインしているユーザーのパスワード。

## xCommand UserManagement User Passphrase Change

必要なユーザー ロール: ADMIN、AUDIT、INTEGRATOR、ROOMCONTROL、USER

ログイン時に使用するユーザーのパスワードを変更します。管理者としてログインしている場合、これによって管理者パスワードが変更されます。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Change NewPassphrase: "NewPassphrase"  
OldPassphrase: "OldPassphrase"
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

(新規) に変更するパスワード。

OldPassphrase: 文字列 (0、255)

(古いもの) から変更するパスワード。

## xCommand UserManagement User Passphrase Set

必要なユーザー ロール: ADMIN

指定したユーザーのパスワードを設定します。パスワードを設定するには、管理者としてログインする必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Set NewPassphrase: "NewPassphrase"  
Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

(新規) に変更するパスワード。

Username: 文字列 (0、127)

新しいパスワードを設定するユーザーのユーザー名。

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

このコマンドの実行時にログインしているユーザーのパスワード。

## xCommand UserManagement User Unblock

必要なユーザー ロール: ADMIN

サインイン試行回数が多すぎるためにブロックされているユーザーのブロックを解除します。

### 使用方法:

```
xCommand UserManagement User Unblock Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

説明:

Username: 文字列 (0、127)

ブロックが解除されるユーザーのユーザー名。

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

このコマンドの実行時にログインしているユーザーのパスフレーズ。

## WebEngine コマンド

### xCommand WebEngine DeleteStorage

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web アプリなど、Web ビュータイプのセッションデータを削除します。

### 使用方法:

```
xCommand WebEngine DeleteStorage [Type: Type]
```

説明:

Type: All/PersistentWebApp/Signage/WebApps - デフォルト値: **All**

**All**: すべての Web ビュー タイプのセッション データを削除します。

**PersistentWebApp**: 永続的な Web アプリに関連するセッションデータを削除します。

**Signage**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

**WebApps**: スタンドアロン Room Navigator には適用されません。

## Webex コマンド

### xCommand Webex Registration Cancel

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

Webex へのデバイスの登録をキャンセルします。

このコマンドは、xCommand Webex Registration Start を使用して登録が開始された後の短期間  
にのみ機能します。

使用方法:

```
xCommand Webex Registration Cancel
```

### xCommand Webex Registration Start

必要なユーザーロール: ADMIN、USER

デバイスのアクティベーションコードを入力すると、デバイスを Webex クラウドサービスに登録しま  
す。また、既存のローカルユーザーを維持または無効化することもできます。

AccountLinkMode パラメータを追加しない限り、登録が成功したか失敗したかの確認が表示され  
ます。

使用方法:

```
xCommand Webex Registration Start [AccountLinkMode: AccountLinkMode]  
ActivationCode: "ActivationCode" SecurityAction: SecurityAction
```

説明:

AccountLinkMode: Asynchronous

このパラメータを追加すると、アカウントがリンクされるのを待たずにコマンドはすぐに返され  
ます。これは、アカウントのリンクが完了する前にコマンドがタイムアウトになるか「failed」と返  
される場合に便利です。

ActivationCode: 文字列 (0、128)

デバイスのアクティベーションコード。

SecurityAction: Harden/NoAction

**Harden**: デバイス登録時にすべての既存ローカルユーザーを無効化します。

**NoAction**: そのままの状態ですべてのデバイスを登録します。ローカルユーザーとマクロに変更はあり  
ません。

## ステータス

<b>Bookings ステータス</b> .....	<b>46</b>	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase .....	53
xStatus Bookings Availability Status .....	46	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId .....	53
xStatus Bookings Availability TimeStamp .....	46	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status .....	53
xStatus Bookings Current Id .....	46	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Urgency .....	54
<b>Diagnostics ステータス</b> .....	<b>47</b>	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL .....	54
xStatus Diagnostics Message [n] Description .....	47	xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId .....	54
xStatus Diagnostics Message [n] Level .....	47	xStatus Provisioning Status .....	54
xStatus Diagnostics Message [n] References .....	47	<b>Standby ステータス</b> .....	<b>55</b>
xStatus Diagnostics Message [n] Type .....	47	xStatus Standby State .....	55
<b>Network ステータス</b> .....	<b>48</b>	<b>SystemUnit ステータス</b> .....	<b>55</b>
xStatus Network [n] CDP Address .....	48	xStatus SystemUnit DeveloperPreview Mode .....	55
xStatus Network [n] CDP Capabilities .....	48	xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel .....	55
xStatus Network [n] CDP DeviceId .....	48	xStatus SystemUnit Hardware Module DeviceId .....	55
xStatus Network [n] CDP Duplex .....	49	xStatus SystemUnit Hardware Module Pcb .....	56
xStatus Network [n] CDP Platform .....	49	xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber .....	56
xStatus Network [n] CDP PortID .....	49	xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text .....	56
xStatus Network [n] CDP PrimaryMgmtAddress .....	49	xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type .....	56
xStatus Network [n] CDP SysName .....	49	xStatus SystemUnit ProductId .....	56
xStatus Network [n] CDP SysObjectId .....	49	xStatus SystemUnit ProductPlatform .....	56
xStatus Network [n] CDP Version .....	50	xStatus SystemUnit ProductType .....	57
xStatus Network [n] CDP VoIPApplianceVlanId .....	50	xStatus SystemUnit Software DisplayName .....	57
xStatus Network [n] CDP VTPMgmtDomain .....	50	xStatus SystemUnit Software Name .....	57
xStatus Network [n] DNS Domain Name .....	50	xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring .....	57
xStatus Network [n] DNS Server [n] Address .....	50	xStatus SystemUnit Software ReleaseDate .....	57
xStatus Network [n] Ethernet MacAddress .....	50	xStatus SystemUnit Software Version .....	57
xStatus Network [n] Ethernet Speed .....	50	xStatus SystemUnit TouchPanel Location .....	57
xStatus Network [n] IPv4 Address .....	51	xStatus SystemUnit TouchPanel Mode .....	58
xStatus Network [n] IPv4 Gateway .....	51	xStatus SystemUnit Uptime .....	58
xStatus Network [n] IPv4 SubnetMask .....	51	<b>Time ステータス</b> .....	<b>58</b>
xStatus Network [n] IPv6 Address .....	51	xStatus Time SystemTime .....	58
xStatus Network [n] IPv6 Gateway .....	51	<b>UserInterface ステータス</b> .....	<b>59</b>
xStatus Network [n] IPv6 LinkLocalAddress .....	51	xStatus UserInterface ContactInfo Name .....	59
xStatus Network [n] VLAN Voice VlanId .....	51	xStatus UserInterface LedControl Color .....	59
xStatus Network [n] VLAN Voice VlanId .....	51	xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility .....	59
<b>NetworkServices ステータス</b> .....	<b>52</b>	xStatus UserInterface WebView [n] Status .....	59
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress .....	52	xStatus UserInterface WebView [n] Type .....	60
xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address .....	52	xStatus UserInterface WebView [n] URL .....	60
xStatus NetworkServices NTP Status .....	52	<b>WebEngine ステータス</b> .....	<b>60</b>
<b>Provisioning ステータス</b> .....	<b>52</b>	xStatus WebEngine Features WebEngine .....	60
xStatus Provisioning ProvisioningType .....	52	<b>Webex ステータス</b> .....	<b>61</b>
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt .....	52	xStatus Webex DeveloperId .....	61
xStatus Provisioning Software Current URL .....	52	xStatus Webex status .....	61
xStatus Provisioning Software Current VersionId .....	53		
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange .....	53		
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message .....	53		

ソフトウェアバージョン: RoomOS 11.3.1

## Bookings ステータス

### xStatus Bookings Availability Status

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

部屋がいつ、どのくらいの期間予約されているかを示します。

返される結果の値空間: BookedUntil/Free/FreeUntil

**Free**: 部屋は当面予約されておらず、Bookings Availability TimeStamp ステータスは空値 (" ") です。

**FreeUntil**: 部屋は現在空室ですが、後で予約されています。予約開始は、Bookings Availability TimeStamp ステータスになっています。

**BookedUntil**: 部屋は現在予約されており、現在の予約終了は、Bookings Availability TimeStamp ステータスになっています。

例:

```
xStatus Bookings Availability Status
*s Bookings Availability Status: Free
** end
```

### xStatus Bookings Availability TimeStamp

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

部屋の現在の Bookings Availability ステータスに基づいたタイムスタンプまたは空値の文字列。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Bookings Availability TimeStamp
*s Bookings Availability TimeStamp: ""
** end
```

### xStatus Bookings Current Id

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

継続中の予約イベントがある場合、その ID。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Bookings Current Id
*s Bookings Current Id: "123"
** end
```

## Diagnostics ステータス

## xStatus Diagnostics Message [n] Description

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

現在の診断アラートに関する説明を表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message Description
*s DiagnosticsResult Message 1 Description: "IP configuration incomplete"
** end
```

## xStatus Diagnostics Message [n] Level

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

診断メッセージの重要性レベルを表示します。

返される結果の値空間: *Error/Warning/Critical*

**Error**: デバイスにエラーがあります。デバイスは引き続き使用できますが、一部制限される可能性があります。

**Warning**: 問題が検出され、より具体的なレポートに問題の詳細が示されます。

**Critical**: 重大な警告レベルです。デバイスは使用できません。

例:

```
xStatus Diagnostics Message 4 Level
*s Diagnostics Message 4 Level: Warning
** end
```

## xStatus Diagnostics Message [n] References

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

診断アラートに関する追加情報 (使用可能な場合)。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message 10 References
*s Diagnostics Message 10 References: "delay=190"
** end
```

## xStatus Diagnostics Message [n] Type

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスでの最新の診断結果に関する情報を表示します。

返される結果の値空間: ANATOnVCS/AbnormalCallTermination/AirPlayBeacon/AirPlayConfiguration/AirPlayProvisioning/AirPlayProvisioningCertificates/AmplifierDetection/AmplifierFanStatus/AudioInternalSpeakerDisabled/AudioPairingInterference/AudioPairingNoise/AudioPairingRate/AudioPairingSNR/AudioPairingTokenDecode/BluetoothAudioInterference/BluetoothHardware/CAPFOperationState/CTLInstallation/CUCMAAndCloudConfigurability/CUCMVendorConfigurationFile/CallHistoryConfiguration/CallProtocolDualStackConfig/CallProtocolIPStackPlatformCompatibility/CallProtocolInvalidCloudProv/CallProtocolVcsProvisioningCompatibility/CameraDetected/CameraId/CameraPairing/CameraSerial/CameraSoftwareVersion/CameraStatus/CamerasDetected/CapsetFilterConfiguration/CaptivePortalDetected/CertificateExpiry/CloudAwareConfigInvalid/CloudConfigurationWriteback/CompanionModelIncompatibilityLocal/CompanionModelIncompatibilityRemote/ConceptCompositor/ConfigurationFile/ContactInfoMismatch/ControlSystemConnection/CurrentNetworkQuality/DefaultCallProtocolRegistered/DeveloperPreview/DigitalMicrophoneStatus/ECReferenceDelay/EmbeddedWebViewFailedToLoad/EmbeddedWebViewTerminatedUnexpectedly/EthernetDuplexMatches/FanStatus/FirstTimeWizardNotCompleted/H323EncrAes256AndDHSize/H323GatekeeperStatus/HTTPFeedbackFailed/HTTPSMODESecurity/HasActiveCallProtocol/HasValidReleaseKey/HdmiCecModeNoSound/HologramCameras/HotdeskConfiguration/HotdeskKioskExclusivity/HttpProxyStatus/IPv4Assignment/IPv6Assignment/IPv6Mtu/ITLInstallation/InternalXapiAccessDenied/InternalXapiUsage/InvalidSIPTransportConfig/IpCameraStatus/KioskSettingsMenuLockConfiguration/KioskURLConfiguration/KioskWebEngineModeConfiguration/KioskWebViewPageLoadStatus/KioskWebViewStatus/LockDown/LowBattery/MacrosErrorLogged/MacrosProvisioningStatus/MacrosRuntimeActive/MacrosRuntimeHasHadCrash/MacrosRuntimeResponsiveness/MacrosRuntimeStopped/MediaBlockingDetected/MediaPortRangeNegative/MediaPortRangeOdd/MediaPortRangeOverlap/MediaPortRangeTooSmall/MediaPortRangeValueSpace/MicrophoneMuteOverride/MicrophoneOverloaded/MicrophonePower/MicrophonesConnected/MiracastConfiguration/MiracastWiredOnlyStatus/MiracastWpsPinLocked/MissingDisplay/MissingThirdDisplay/MonitorDelay/MonitorFirmwareVersion/NTPStatus/NetLinkStatus/NetSpeedAutoNegotiated/NetworkConnectivity/NetworkQuality/NetworkSwitch/OSDVideoOutput/OutputConnectorLocations/PIILoggingMode/PanoramaCameraHdmi/PanoramaView/PeripheralSoftwareUpgrade/PeripheralSoftwareVersion/PersistentWebAppFailedToLoad/PersistentWebAppTerminatedUnexpectedly/PersistentWebAppURLConfiguration/PlatformSanity/PoEStatus/PresentationSourceSelection/PresenterTrack/ProvModeWebexAndWebexEdgeEnabled/ProvisioningDeveloperOptions/ProvisioningModeAndStatus/ProvisioningStatus/RoomControl/RoomSchedulingConfiguration/SIPEncryption/SIPListenPortAndRegistration/SIPProfileRegistration/SIPProfileType/SelectedVideoInputSourceConnected/SignageFailedToLoad/SignageTerminatedUnexpectedly/SipIceAndAnatConflict/SipOrH323ButNotBothEnabled/SoftwareUpgrade/SoftwareUpgradeAvailability/SoftwareUpgradeKeepsFailing/SpeakerTrackEthernetConnection/

```
SpeakerTrackFrontPanelMountedCorrectly/SpeakerTrackMicrophoneConnection/  
SpeakerTrackVideoInputs/StandbyCtrlOfficeHoursConfiguration/StylusBattery/  
TCPMediaFallback/TLSVerifyRequiredCerts/TemperatureCheck/TouchPanelConnection/  
USBAudioSeparation/USBCameraMode/USBInterfaceType/USBMicType/  
UltrasoundConfigSettings/UltrasoundSpeakerAvailability/ValidPasswords/  
VideoFromInternalCamera/VideoInputSignalQuality/VideoInputStability/  
VideoPortRangeNegative/VideoPortRangeOdd/VideoPortRangeTooSmall/  
VideoPortRangeValueSpace/WebRTCCalling/WebexAccountPlusWebexEdgeEnabled/  
WebexActivationRequired/WebexAudioProximityConnectivity/WebexConnectivity/  
WebexEdgeAccountPendingCloudRegistration/WebexEdgeAccountPlus  
ProvModeWebex/WebexLyraConnectivity/WebexMustUpgradeCeSoftware/  
WebexNfcProximityConnectivity/WebexNotificationConnectivity/WebexOffline/  
WebexQRCodeProximityConnectivity/WebexShouldUpgradeCeSoftware/  
WebexUsbcProximityConnectivity/WifiCARequired/WirelessCharging/  
WirelessConnectionStatus/XapiApiKeyWebsocketHttpsDisabled
```

例:

```
xStatus Diagnostics Message Type  
*s 診断メッセージ 1 タイプ: PersistentWebAppURLConfiguration  
** end
```

## Network ステータス

### xStatus Network [n] CDP Address

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

受信デバイスと送信デバイスの両方の最初のネットワーク アドレスを返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP Address  
*s Network 1 CDP Address: "192.0.1.20"  
** end
```

### xStatus Network [n] CDP Capabilities

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイス タイプの形式でスイッチの機能を示します。詳細については、CDP プロトコルのマニュアルを参照してください。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP Capabilities  
*s Network 1 CDP Capabilities: "0x0029"  
** end
```

### xStatus Network [n] CDP DeviceId

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

文字列の形式でスイッチの名前を識別します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP DeviceId  
*s Network 1 CDP DeviceId: "123456.company.com"  
** end
```



### xStatus Network [n] CDP Duplex

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

CDP ブロードキャスト インターフェイスのステータス (デュプレックス設定) を示します。ネットワーク オペレータが、隣接するネットワーク要素間の接続の問題を診断するときに使用します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP Duplex
*s Network 1 CDP Duplex: "Full"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP Platform

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスに接続されたスイッチのハードウェア プラットフォーム名を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP Platform
*s Network 1 CDP Platform: "cisco WS-C3750X-48P"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP PortID

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

スイッチが使用する、デバイスの接続先のポートの ID を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP PortID
*s Network 1 CDP PortID: "GigabitEthernet1/0/23"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP PrimaryMgmtAddress

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスの接続先のスイッチの設定と監視に使用される管理アドレスを返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP PrimaryMgmtAddress
*s Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress: "10.1.1.2"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP SysName

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスの接続先のスイッチで設定された SysName を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysName
*s Network 1 CDP SysName: ""
** end
```

### xStatus Network [n] CDP SysObjectID

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスの接続先のスイッチで設定された SysObjectID を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysObjectID
*s Network 1 CDP SysObjectID: ""
** end
```

### xStatus Network [n] CDP Version

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

スイッチが実行しているソフトウェア リリース バージョンに関する情報を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 CDP Version
*s Network 1 CDP Version: "Cisco IOS Software, C3560CX Software (C3560CX-
UNIVERSALK9-M), Version 15.2(3)E, RELEASE SOFTWARE (fc4)*Technical Support:
http://www.cisco.com/techsupport*Copyright (c) 1986-2014 by Cisco Systems,
Inc.*Compiled Sun 07-Dec-14 13:15 by prod_rel_team"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP VoIPApplianceVlanID

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスからスイッチへの VoIP トラフィックに使用される VLAN を識別します。詳細については、IEEE 802.1Q プロトコルのマニュアルを参照してください。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP VoIPApplianceVlanID
*s Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID: "300"
** end
```

### xStatus Network [n] CDP VTPMgmtDomain

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

スイッチの設定済み VTP 管理ドメイン名の文字列を返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network CDP VTPMgmtDomain
*s Network 1 CDP VTPMgmtDomain: "anyplace"
** end
```

### xStatus Network [n] DNS Domain Name

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

ドメイン名を表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Domain Name
*s Network 1 DNS Domain Name: "www.example.com www.example.int"
** end
```

### xStatus Network [n] DNS Server [n] Address

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

DNS サーバの IP アドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Server 1. Address
*s Network 1 DNS Server 1 Address: "192.0.2.60"
** end
```

### xStatus Network [n] Ethernet MacAddress

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

イーサネット インターフェイスの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:FD:C7"
** end
```

### xStatus Network [n] Ethernet Speed

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

イーサネット速度を Mbps 単位で示します。速度は、全二重または半二重の場合があります。

返される結果の値空間: 10half/10full/100half/100full/1000full

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet Speed
*s Network 1 Ethernet Speed: "100full"
** end
```

### xStatus Network [n] IPv4 Address

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

このデバイスを一意に識別する IPv4 アドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Address
*s Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.149"
** end
```

### xStatus Network [n] IPv4 Gateway

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

IPv4 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Gateway
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
** end
```

### xStatus Network [n] IPv4 SubnetMask

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

IPv4 アドレスが属するサブネットを決定するサブネット マスクを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
** end
```

### xStatus Network [n] IPv6 Address

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

このデバイスを一意に識別する IPv6 アドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Address
*s Network 1 IPv6 Address: ""
** end
```

### xStatus Network [n] IPv6 Gateway

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

IPv6 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Gateway
*s Network 1 IPv6 Gateway: ""
** end
```

### xStatus Network [n] IPv6 LinkLocalAddress

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

プライマリ ユーザー インターフェイスに表示されている IPv6 リンク ローカル アドレスを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 LinkLocalAddress
*s Network 1 IPv6 LinkLocalAddress: "2001:DB8:0000:0000:0000:0000:0001"
** end
```

### xStatus Network [n] VLAN Voice VlanId

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

フィードバックは、VLAN 音声 ID を示します。

返される結果の値空間: *Off/1 ~ 4094*

*Off*: VLAN 音声モードは有効になっていません。

*1 ~ 4094*: VLAN 音声 ID

例:

```
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```

## NetworkServices ステータス

### xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在使用されている NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress
*s NetworkServices NTP CurrentAddress: "123.254.15.121"
** end
```

### xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスが使用している NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Address
*s NetworkServices NTP Address: "12.104.193.12 64.104.222.16 144.254.15.121"
** end
```

### xStatus NetworkServices NTP Status

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

NTP サーバと同期しているデバイスのステータスを返します。

返される結果の値空間: *Discarded/Synced/NotSynced/Unknown/Off*

**Discarded**: NTP の結果が廃棄されました。

**Synced**: デバイスは NTP サーバと同期しています。

**NotSynced**: デバイスは NTP サーバと同期していません。

**Unknown**: 同期の状態が不明です。

**Off**: NTP サーバとの同期なし。

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Status
*s NetworkServices NTP Status: Synced
** end
```

## Provisioning ステータス

### xStatus Provisioning ProvisioningType

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

Room Navigator がスタンドアロンデバイスとして設定されているか、またはビデオ会議デバイスとペアリングされているか (直接またはネットワーク経由で) を報告します。Provisioning SetType コマンドを参照してください。

返される結果の値空間: *NotSet/PairedToCodec/Standalone*

**NotSet**: プロビジョニングタイプに関する情報は不明です。

**PairedToCodec**: Room Navigator はビデオ会議デバイスとペアリングされています。

**Standalone**: Room Navigator はスタンドアロンデバイスとして設定されています。

例:

```
xStatus Provisioning ProvisioningType
*s Provisioning ProvisioningType:Standalone
** end
```

### xStatus Provisioning Software Current CompletedAt

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在のソフトウェア アップグレードが完了した日時を表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

### xStatus Provisioning Software Current URL

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在のソフトウェアのアップロード元の URL を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current URL
*s Provisioning Software Current URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

### xStatus Provisioning Software Current VersionId

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在のソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current VersionId
*s Provisioning Software Current VersionId: "s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

最新のソフトウェア アップグレードの日時を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

ソフトウェア アップグレードのシステム メッセージを表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

ソフトウェア アップグレードのフェーズを示します。

返される結果の値空間: *None/AboutToInstallUpgrade/DownloadDone/DownloadPaused/DownloadPending/Downloading/Installing/InstallingPeripherals/Postponed/UpgradingPeripherals*

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

ソフトウェア アップグレードのセッション ID を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

ソフトウェア アップグレードのステータスを表示します。

返される結果の値空間: *None/InProgress/Failed/InstallationFailed/Succeeded*

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Urgency

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

ソフトウェアのアップグレードの必要性の緊急性を示します。

返される結果の値空間: *Low/Medium/Critical*

ソフトウェア アップグレードの緊急性を指定します。

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Urgency
*s Provisioning Software UpgradeStatus Urgency: Low
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在アップロードおよびインストール中の新しいソフトウェアのアップロード元/インストール元 URL を示します。

返される結果の値空間: *文字列*

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

### xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

現在アップロードおよびインストール中のソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値空間: *文字列*

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: "s52010ce8_0_0.pkg"
** end
```

### xStatus Provisioning Status

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

プロビジョニングのステータスを示します。

返される結果の値空間: *Failed/AuthenticationFailed/Provisioned/Idle/NeedConfig/ConfigError*

**Failed**: プロビジョニングが失敗しました。

**AuthenticationFailed**: 認証に失敗しました。

**Provisioned**: デバイスがプロビジョニングされています。

**Idle**: プロビジョニングは非アクティブです。

**NeedConfig**: デバイスを設定する必要があります。

**ConfigError**: 設定時にエラーが発生しました。

例:

```
xStatus Provisioning Status
*s Provisioning Status: Provisioned
** end
```

## Standby ステータス

### xStatus Standby State

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR、ROOMCONTROL、USER

デバイスがスタンバイ モードになっているかどうかを表示します。

返される結果の値空間: *Standby/EnteringStandby/Halfwake/Off*

**Standby**: デバイスはスタンバイ状態です。

**EnteringStandby**: デバイスはスタンバイ状態に移行中です。

**Halfwake**: デバイスはスタンバイ状態ですが、モーション (動き) または Proximity ペアリング アプリによって在室が検出されると、ユーザーに応答します。

**Off**: デバイスはスタンバイ状態ではありません。

例:

```
xStatus Standby State
*s Standby State: Off
** end
```

## SystemUnit ステータス

### xStatus SystemUnit DeveloperPreview Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デベロッパー プレビュー モードが On か Off かを示します。これは、SystemUnit DeveloperPreview Activate および SystemUnit DeveloperPreview Activate コマンドによって制御されます。

返される結果の値空間: *On/Off*

例:

```
xStatusSystemUnit DeveloperPreview Mode
*s SystemUnit DeveloperPreview Mode: Off
** end
```

### xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスが異なる互換性レベルのセットを持っています。リリース ノートを参照して、製品に必要な互換性レベルとソフトウェアの最小バージョンを確認してください。

返される結果の値空間: *文字列*

デバイスの互換性レベルを示します。

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel
*s SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel: 1
** end
```

### xStatus SystemUnit Hardware Module DeviceId

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスのハードウェアモジュールの一意で永続的な識別子を表示します。

返される結果の値空間: *文字列*

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Module DeviceId
*s SystemUnit Hardware Module DeviceId:"xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx"
** end
```

### xStatus SystemUnit Hardware Module Pcb

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスの PCB の識別子を表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Module Pcb
*s SystemUnit Hardware Module Pcb:"xx-xxxxxx"
** end
```

### xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスのハードウェア モジュールのシリアル番号を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber
*s SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber: "FOC99999999"
** end
```

### xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

重要なシステム通知に関連するテキストを一覧表示します。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにデバイスが再起動したときや、ファクトリリセットが実行されたときなどに発行されます。

すべての通知は、SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Text
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Text: "OK"
** end
```

### xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

システム通知のタイプを一覧表示します。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにデバイスが再起動したときや、ファクトリリセットが実行されたときなどに発行されます。

すべての通知は、SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値空間: *SoftwareUpgradeOK/SoftwareUpgradeFailed/RebootRequired/Other*

**SoftwareUpgradeOK:** この値は、ソフトウェア アップグレードの成功後に返されます。

**SoftwareUpgradeFailed:** この値は、ソフトウェア アップグレードの試行失敗後に返されます。

**RebootRequired:** この値は、再起動が必要な場合に返されます。

**Other:** この値は、他のすべての通知に対して返されます。

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Type
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Type: SoftwareUpgradeOK
** end
```

### xStatus SystemUnit ProductId

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

製品の識別情報を示します。

返される結果の値空間: 文字列 (*"Cisco Room Navigator"*)

例:

```
xStatus SystemUnit ProductId
*s SystemUnit ProductId: "Cisco Room Navigator"
** end
```

### xStatus SystemUnit ProductPlatform

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

製品プラットフォームを示します。

返される結果の値空間: 文字列 (*"Room Navigator"*)

例:

```
xStatus SystemUnit ProductPlatform
*s SystemUnit ProductPlatform: "Room Navigator"
** end
```



### xStatus SystemUnit ProductType

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

製品タイプを示します。

返される結果の値空間: 文字列 ("Cisco Codec")

例:

```
xStatus SystemUnit ProductType
*s SystemUnit ProductType: "Cisco Codec"
** end
```

### xStatus SystemUnit Software DisplayName

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアの名前を、UI に表示されるとおりに示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software DisplayName
*s SystemUnit Software DisplayName: "RoomOS 11.3.1.10 1e761f985a1 2023-03-18"
** end
```

### xStatus SystemUnit Software Name

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアの名前を表示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Name
*s SystemUnit Software Name: "s53350"
** end
```

### xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

RemoteMonitoring オプションキーがデバイスにインストールされているかどうかを表示します。

返される結果の値空間: *False/True*

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
*s SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring: "true"
** end
```

### xStatus SystemUnit Software ReleaseDate

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアのリリース日付を示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2023-03-22"
** end
```

### xStatus SystemUnit Software Version

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスにインストールされたソフトウェアのバージョンを示します。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Version
*s SystemUnit Software Version: "ce11.3.1.10.1e761f985a1"
** end
```

### xStatus SystemUnit TouchPanel Location

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

Room Navigator の場所を報告します。SystemUnit TouchPanel Location 設定を参照してください。

返される結果の値空間: *NotSet/InsideRoom/OutsideRoom*

**InsideRoom**: デバイスは室内にあります。

**NotSet**: デバイスの場所に関する情報がありません。

**OutsideRoom**: デバイスは室外にあります。

例:

```
xStatus SystemUnit TouchPanel Location
*s SystemUnit TouchPanel Location: OutsideRoom
** end
```

### xStatus SystemUnit TouchPanel Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

Room Navigator は、ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイス、ルーム予約デバイス、または永続的な Web アプリの表示にすることができます。SystemUnit SetTouchPanelMode コマンドを参照してください。

返される結果の値空間: *NotSet/Controller/Scheduler/PersistentWebApp*

**NotSet**: モードは不明です。

**Controller**: Room Navigator は、ビデオ会議デバイスの標準ユーザーインターフェイスです。

**Scheduler**: Room Navigator は、部屋の予約に使用されます。

**PersistentWebApp**: サードパーティ Web アプリケーション (永続 Web アプリケーション) が Room Navigator で実行されています。

例:

```
xStatus SystemUnit TouchPanel Mode
*s SystemUnit TouchPanel Mode: PersistentWebApp
** end
```

### xStatus SystemUnit Uptime

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスの最後の再起動以降の秒数を示します。

返される結果の値空間: **整数**

例:

```
xStatus SystemUnit Uptime
*s SystemUnit Uptime: 597095
** end
```

## Time ステータス

### xStatus Time SystemTime

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスに設定された日時を返します。

返される結果の値空間: **文字列**

例:

```
xStatus Time SystemTime
*s Time SystemTime: "2023-03-23T10:52:04+0100"
** end
```

## UserInterface ステータス

### xStatus UserInterface ContactInfo Name

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスのアクティブな連絡先の名前を返します。デバイスがプロトコルに登録されている場合は、そのプロトコルに応じて結果が異なります。自動的に設定された連絡先名は、コマンド xConfiguration UserInterface ContactInfo Type によって上書きされている場合があります。その場合は、連絡先の不一致に関する診断警告が表示されます。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo Name
*s UserInterface ContactInfo Name: "MySystem"
** end
```

### xStatus UserInterface LedControl Color

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

Room Navigator の壁掛けバージョンには LED ライトが付いています。このステータスは、LED ライトの状態を返します。

返される結果の値空間: *Green/Off/Red/Yellow*

**Off:** LED ライトを Off にします。

**Green/Red/Yellow:** 指定色で LED ライトを On にします。

例:

```
xStatus UserInterface LedControl Color
*s UserInterface LedControl Color: Green
** end
```

### xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このステータスは、デバイス設定パネルを含むコントロールパネルがユーザーインターフェイスの一部であるかどうかを報告します。

返される結果の値空間: *Visible/Hidden*

**Visible:** コントロールパネルはユーザ インターフェイスに含まれています (右からスワイプするか、ユーザインターフェイスの右上隅にあるアイコンをタップします)。

**Hidden:** コントロールパネルは表示されません。

例:

```
xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility
*s UserInterface SettingsMenu Visibility: Visible
** end
```

### xStatus UserInterface WebView [n] Status

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

Web ビューが現在表示されているかどうかを示します。

返される結果の値空間: *Visible/Error/NotVisible*

**Visible:** Web ビューが表示されます。

**NonVisible:** Web ビューは表示されません。

**Error:** Web ビューの表示中にエラーが発生しました。

例:

```
xStatus UserInterface WebView
*s UserInterface WebView 8 Status: Visible
** end
```

### xStatus UserInterface WebView [n] Type

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

現在表示されている Web ビューのタイプを示します。

返される結果の値空間: *ECM/ECMSignIn/EmbeddedApp/Integration/Kiosk/None/PersistentWebApp/Signage/WebApp/WebRTCMeeting*

**ECM**: Web ビューは、ファイルブラウザから起動し、エンタープライズコンテンツ管理 (ECM) サービスでホストされているファイルを閲覧します。

**ECMSignIn**: Web ビューはシステムによって起動され、ECM サービスでユーザー (OAuth2) を認証します。

**Integration**: Web ビューは、UserInterface WebView Display API コマンドによって起動されます。

**Kiosk**: Web ビューは、キオスクアプリケーションによって使用されます。

**None**: Web ビューは、表示されません。

**PersistentWebApp**: Web ビューは、永続的な Web アプリに対して使用されます。

**Signage**: Web ビューは、デジタル サイネージ アプリケーションに対して使用されます。

**WebApp**: Web ビューは、Web アプリに対して使用されます。

**WebRTCMeeting**: Web ビューは、WebRTC Meeting に対して使用されます (レイアウト: Google Meet や Microsoft Teams)。

例:

```
xStatus UserInterface WebView
*s UserInterface WebView 8 Type: Integration
** end
```

### xStatus UserInterface WebView [n] URL

必要なユーザーロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

現在表示されている Web ビューの URL を表示します。

返される結果の値空間: *文字列*

例:

```
xStatus UserInterface WebView
*s UserInterface WebView 8 URL: "http://www.yr.no/"
** end
```

## WebEngine ステータス

### xStatus WebEngine Features WebEngine

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

Web エンジンが有効であるかどうかを報告します。これは、WebEngine Mode 設定がオンの場合に有効 (On) になっています。

返される結果の値空間: *On/Off*

例:

```
xStatus WebEngine Features WebEngine
* s WebEngine Features WebEngine: On
** end
```

## Webex ステータス

### xStatus Webex DeveloperId

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

この ID は、developer.webex.com を介してデバイスに cloud xAPI コールを送信するために使用できます。

クラウド xAPI を使用すると、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスにコマンドとステータスリクエストを送信できます。ほとんどの xAPI リクエストには、このステータスを使用して取得できる deviceld が必要です。

返される結果の値空間: 文字列

例:

```
xStatus Webex DeveloperId
*s Webex DeveloperId: "*****"
** end
```

### xStatus Webex status

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスと Webex クラウドサービス間の接続ステータスを報告します。クラウドサービスが起動して実行されている場合、ステータスレポートが登録されます。

返される結果の値空間: *Disabled/Error/Registered/Registering/Stopped*

例:

```
xStatus Webex status
*s Webex Status:Registered
** end
```

## その他の設定 (プログラミング用ではない)

以下の設定は、デバイスの Web インターフェイスからのみ利用できます。これらはパブリック API の一部ではないため、プログラミングに使用することはできません。これらは、予告なしに削除または変更される可能性があります。

### その他の設定

ロギング 内部モード .....	62
ロギングモード .....	62
NetworkServices CommonProxy .....	62
NetworkServices HTTP プロキシ認証方式 .....	62
NetworkServices XMLAPI Mode .....	63
RoomScheduler BookingTimeout .....	63
SystemUnit CrashReporting Advanced .....	63
UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings .....	63
UserInterface Bookings Visibility Title .....	63
UserInterface PortraitOrientationSupport .....	63

ソフトウェアバージョン: RoomOS 11.3.1

### ロギング 内部モード

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

システムログをデバイス (ローカルファイル) に保存するかどうかを指定します。これらは、ログバンドルをデバイスからダウンロードした際に得られるファイルです。Logging Mode 設定が Off に設定されている場合、この設定には効果がありません。

デフォルト値: **On**

値スペース: *Off/On*

**Off:** システム ログはデバイスに保存されません。

**On:** システム ログはデバイスに保存されます。

### ロギング モード

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

デバイスのロギング モード (syslog サービス) を定義します。無効にすると、syslog サービスが起動せず、システムログと監査ログのほとんどが生成されません。履歴ログと通話履歴は影響を受けません。

デフォルト値: **On**

値スペース: *Off/On*

**Off:** システムのロギング サービスを無効にします。

**On:** システムのロギング サービスを有効にします。

### NetworkServices CommonProxy

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

この設定は、シスコ内部使用のみです。変更しないでください。

### NetworkServices HTTP プロキシ認証方式

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

この設定は、シスコ内部使用のみです。変更しないでください。

### NetworkServices XMLAPI Mode

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

デバイスの XML API を有効化または無効化します。セキュリティ上の理由からこれを無効にできません。XML API を無効にすると、デバイスのリモート管理が制限される場合があります。

デフォルト値: **On**

値スペース: *Off/On*

*Off*: XML API は無効になります。

*On*: XML API は有効になります。

### RoomScheduler BookingTimeout

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

スケジューラは、ユーザーが部屋やデバイスを予約するとすぐにフィードバックします。ただし、カレンダーサービスでは予約を確認するのに時間がかかる場合があります。予約確認に時間がかかり、その時間がここで設定した値を超えた場合、予約はクリアされ、デバイスまたは部屋は「空き」と表示されます。

デフォルト値: **60**

値スペース: *整数 (60 ~ 300)*

確認を待機する秒数。

### SystemUnit CrashReporting Advanced

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。ACR ツールは、シスコ社内のみで使用し、お客様は利用できません。

デフォルト値: **On**

値スペース: *Off/On*

*Off*: ACR ツールは標準的なログ解析を実行します。

*On*: ACR ツールは高度なログ解析を実行します。

### UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

通常、今後の会議のリストは画面とタッチコントロールに表示されます。仮の会議をリストに含めるかどうかを設定します。

デフォルト値: **Auto**

値スペース: *Auto/Hidden*

*Auto*: 仮の会議がリストに含まれます。

*Hidden*: 仮の会議はリストに含まれません。

### UserInterface Bookings Visibility Title

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

ミーティングの詳細をプライベートに変更します。「スケジュールされたミーティング (Scheduled meeting)」というテキストがミーティングのタイトルとして表示されます。

デフォルト値: **Auto**

値スペース: *Auto/Hidden*

*Auto*: ミーティングのタイトルが公開され、ユーザーインターフェイスに表示されます。

*Hidden*: ミーティングのタイトルが非表示になり、ユーザーインターフェイスには「スケジュールされたミーティング (Scheduled meeting)」と表示されます。

### UserInterface PortraitOrientationSupport

必要なユーザー ロール: ADMIN

可用性: デバイス Web インターフェイスのみ (プログラミング用ではない)

このバージョンでは適用されません。

### Cisco のお問い合わせ先

Cisco のウェブサイトでは、Cisco の世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

アクセス先: ▶ <https://www.cisco.com/go/offices>

#### 本社

Cisco Systems, Inc.  
170 West Tasman Dr.  
San Jose, CA 95134 USA

### 知的財産

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン パーティションとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、[https://www.cisco.com/c/ja\\_jp/about/legal/trademarks.html](https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html) をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)。